

平成30年度

大磯町教育委員会 の 点検・評価

(平成29年度対象)

大磯町教育委員会

平成30年11月

目次

はじめに

1 教育委員会とは	P 2
2 点検・評価の趣旨	P 3
3 点検・評価の対象	P 3
4 点検・評価の流れ	P 4

I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成 29 年度教育委員会活動一覧	P 5
2 項目別活動状況	P 6
3 項目別点検・評価（内部評価）	P 2 6
4 学識経験者による評価（外部評価）	P 3 1

II 「平成 29 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育	P 3 9
2 生涯学習	P 4 6
3 図書館	P 5 0
4 郷土資料館	P 5 3

III 資料編

1 関係法令	P 5 6
2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 5 6
3 平成 29 年度教育委員会基本方針	P 5 7

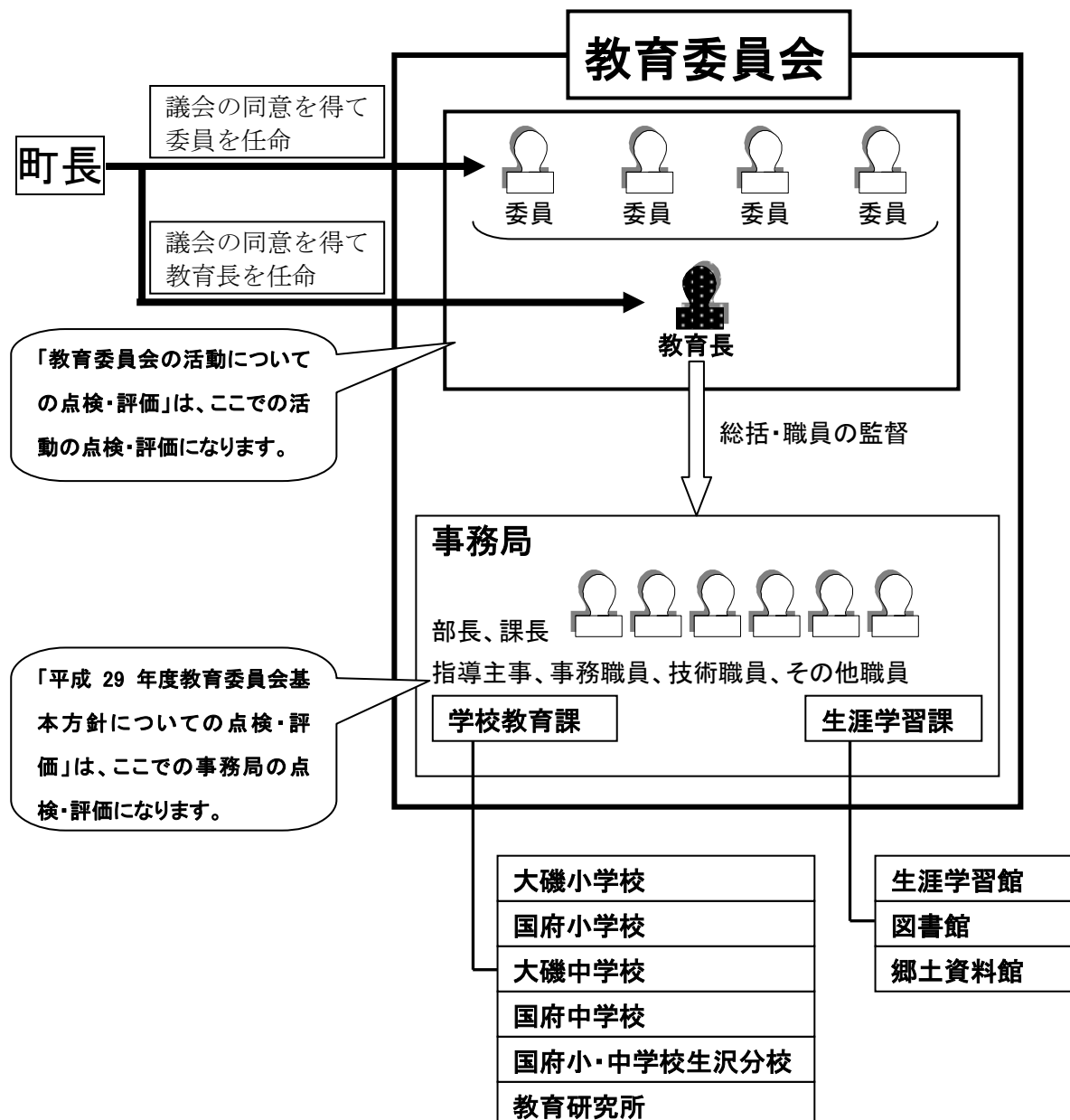
はじめに

1 教育委員会とは

(1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって構成されています。
- 大磯町教育委員会教育長及び委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育長の任期は3年、委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表（会議の主宰者、具体的な事務執行の責任者、事務局の指揮監督者）します。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に事務局が置かれています。事務局の内部組織は、教育委員会の規則で定められています。



(2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

3 点検・評価の対象

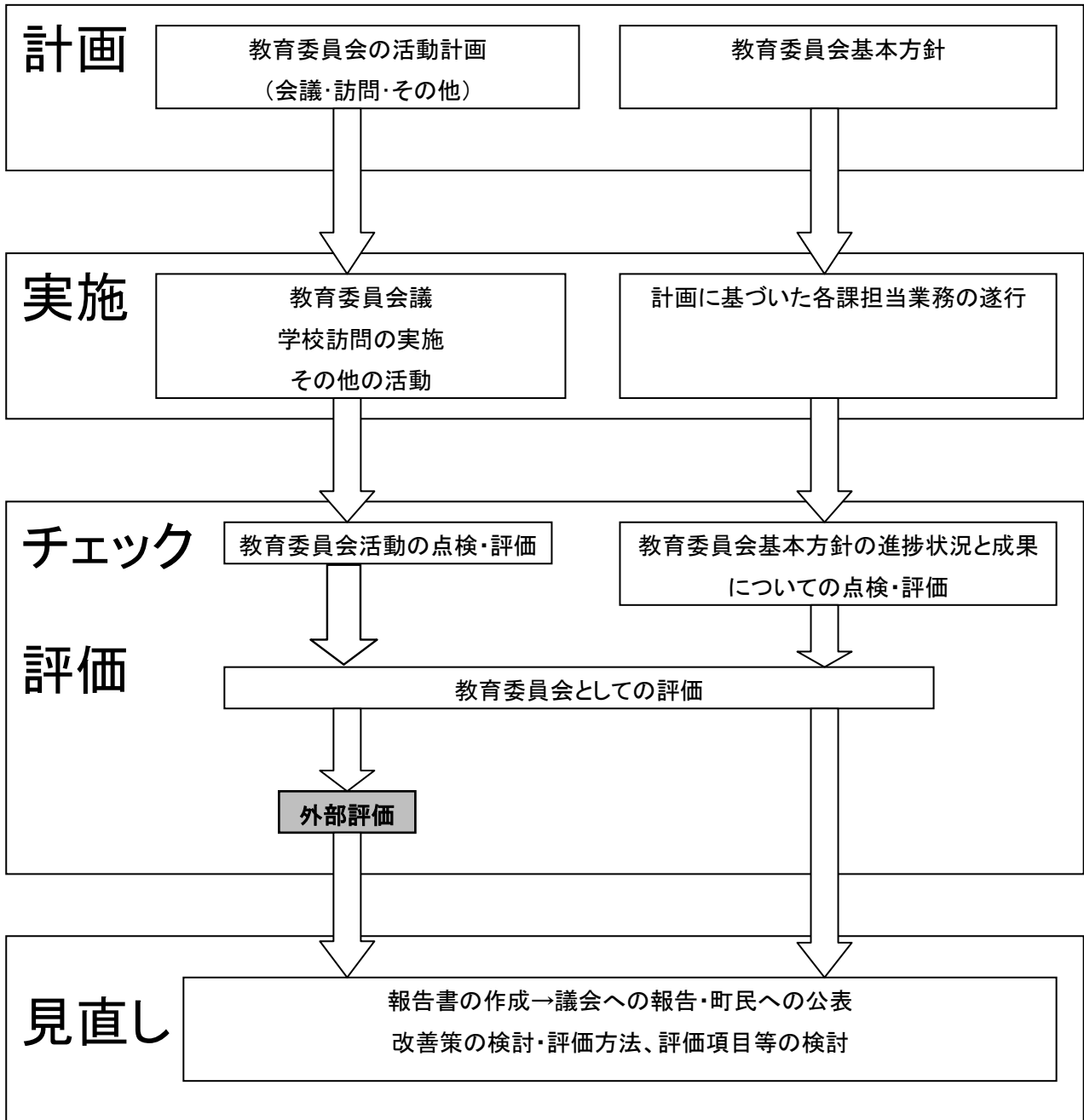
(1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 29 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者から内部評価の妥当性や指導・助言など外部評価をいただきました。

(2) 「平成 29 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 29 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

4 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成29年度教育委員会活動一覧

会議名		内容等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	2回（7月、9月）
事務連絡調整会議		12回（定例会・臨時会開催後及び適宜）
総合教育会議		1回（7月）
意見交換会・懇談会	PTA役員	平成29年度は未実施
	地域住民 保護者	3回 国府中学校「地域フォーラム」（8月5日） 国府小学校「地区懇談会」（8月31日） 大磯中学校「地区懇談会」（9月16日）
訪問	幼稚園 保育園	3回（7月、9月、2月）
	学校	5回（5月、6月、10月、11月、1月）
	行事等	運動会・体育祭、文化祭・保育発表会等、入学式・卒業式等、生涯学習関連事業、教育研究所関係事業、その他町行事等
その他の活動		神奈川県市町村教育委員会連合会総会・研修会 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

2 項目別活動状況

(1)教育委員会議

平成29年度

第1回定例会〔平成29年4月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	大磯町郷土資料館本館の臨時休館について
報告事項	報告事項第1号	平成29年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第2号	平成28年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第3号	大磯町指定民俗資料「高麗の山神輿」の実施について
	報告事項第4号	第6回大磯チャレンジライブの実施結果について
	報告事項第5号	旧吉田茂邸落成記念式典及び内覧会の実施結果等について
	報告事項第6号	平成29年第1回大磯町議会定例会の概要について

第2回定例会〔平成29年5月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第2号	平成29年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について
報告事項	報告事項第1号	おはなしボランティア養成講座「『ブックトーク』してみませんか」の開催について
	報告事項第2号	町立国府幼稚園の統廃合に伴う(仮称)大磯認定こども園の新設工事について
	報告事項第3号	大磯町指定民俗資料「高麗の山神輿」の実施結果について
	報告事項第4号	神奈川県指定無形民俗文化財「国府祭」の調査について
	報告事項第5号	旧吉田茂邸落成記念企画展「吉田 茂 ―その生涯と大磯―」の実施結果について

第3回定例会〔平成29年6月22日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成29年第2回(6月)大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町立中学校給食に関する懇話会設置要綱の制定について
	報告事項第3号	幼保小中一斉引渡し訓練の実施結果について
	報告事項第4号	大磯御船祭山車等修繕交付金交付要綱の制定について
	報告事項第5号	郷土資料館の臨時開館について
	報告事項第6号	企画展「ようこそアオバト楽会(がっかい)へ ～新たに解明されたアオバトのふしぎ～」の開催について

第4回定例会〔平成29年7月20日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第2号	第64回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第3号	大磯町博物館資料取扱要綱について

第1回臨時会〔平成29年7月26日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第3号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第4号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について

第5回定例会〔平成29年8月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第5号	平成29年9月補正予算における教育委員会予算要求について
報告事項	報告事項第1号	平成28年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	大磯町文化財運営委員会委員の委嘱について
	報告事項第3号	おはなしボランティア養成講座「『ブックトーク』してみませんか」の実施結果について
	報告事項第4号	ミニ企画展「大磯の災害」の開催について

第2回臨時会〔平成29年9月18日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	大磯町立中学校スクールランチ事故等について

第6回定例会〔平成29年9月26日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第6号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部改正
報告事項	報告事項第1号	中学校部活動夏の大会結果について
	報告事項第2号	平成29年度人権教育講演会の開催について
	報告事項第3号	第64回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第4号	「カンカラ三線演歌師 岡大介～添田唾蟬坊の魅力～」の開催について
	報告事項第5号	大磯町郷土資料館協議会委員の委嘱について
	報告事項第6号	企画展「大磯別邸城山荘 ー三井高棟が遺したものー」の開催について
	報告事項第7号	企画展「ようこそアオバト楽会へ～新たに解明されたアオバトのふしぎ」の実施結果について
	報告事項第8号	大磯町立中学校給食スクールランチ事故等について

第7回定例会〔平成29年10月19日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	平成29年度大磯町教育委員会の点検・評価（案）について
報告事項	報告事項第1号	平成29年度第3回（9月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	第16回大磯図書館まつりの開催について
	報告事項第3号	ミニ企画展「大磯の災害」の実施結果について
	報告事項第4号	大磯町立中学校給食・調理配送等業務委託契約について

第8回定例会〔平成29年11月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第7号	平成29年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第8号	平成29年12月補正予算における教育委員会関係予算要求について
	議案第9号	大磯町保育所条例等の一部を改正する条例について
協議事項	協議事項第1号	平成30年度教育委員会当初予算要求に係る協議について
報告事項	報告事項第1号	平成29年度第2回大磯町立中学校給食に関する懇話会開催結果について
	報告事項第2号	平成29年度人権教育講演会の実施結果について
	報告事項第3号	大磯町指定文化財等の貸出しについて
	報告事項第4号	町立幼稚園への平成30年度入園応募状況について
	報告事項第5号	大磯町公私連携幼保連携型認定こども園設置及び運営に関する協定書の締結について
	報告事項第6号	「いそっこフェスティバル」の実施結果について

第9回定例会〔平成29年12月21日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	大磯町立中学校給食について
報告事項	報告事項第1号	平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果について
	報告事項第2号	平成29年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第3号	平成29年度文化財消防訓練の実施について
	報告事項第4号	第64回おおいそ文化祭の実施結果について
	報告事項第5号	第16回大磯図書館まつりの実施結果について
	報告事項第6号	企画展「大磯別邸城山荘 一三井高棟が遺したもの―」の実施結果について
	報告事項第7号	病後児保育事業の二宮町児童の利用について
	報告事項第8号	大磯町保育所条例施行規則の一部改正について

第10回定例会〔平成30年1月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第10号	平成30年度当初予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第11号	平成30年3月補正予算における教育委員会関連予算要求について
協議事項	協議事項第1号	平成30年度教育委員会基本方針（案）について
報告事項	報告事項第1号	平成29年第4回（12月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	平成29年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの実施結果について
	報告事項第3号	OISO学び塾Ⅳ・明治150年記念「ハワイ開拓の先駆者・後藤 潤（かつ）」の開催について
	報告事項第4号	図書館教養講座『地図と地形からみた神奈川の鉄道』について
	報告事項第5号	児童文学講演会『絵本と紙芝居のふしぎなふふふの違い』について
	報告事項第6号	平成30年度大磯町郷土資料館の臨時開館について
	報告事項第7号	春季企画展『ちょっと昔の暮らしと道具』の開催について
	報告事項第8号	大磯町立学校教職員働き方改革の取組みの試行について

第11回定例会〔平成30年2月23日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第12号	平成30年度大磯町教育委員会基本方針について
	議案第13号	平成29年度大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について（文化・スポーツ優秀者表彰）
	議案第14号	県費負担教職員の任免に係る内申について
	議案第15号	大磯町立幼稚園園則の一部改正
	議案第16号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部改正
報告事項	報告事項第1号	第2回いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第2号	平成29年度文化財消防訓練の実施結果について
	報告事項第3号	第7回大磯チャレンジライブの開催について

第12回定例会〔平成30年3月23日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第17号	学校教育法施行細則の一部を改正する細則について
	議案第18号	大磯町立小学校の特別支援学級で使用する教科用図書の採択について
	議案第19号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について
協議事項	協議事項第1号	給食食材の放射性物質濃度の測定について
報告事項	報告事項第1号	教育長職務代理者の指名について
	報告事項第2号	教育委員会関連事業の実施及び結果報告について

(2) 事務連絡調整会議

月日	項目	内容
4月20日 第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度保護者負担金の状況について 2 教科書採択（特別の教科道徳）について 3 平成31年4月からの中学校給食に向けての検討スケジュールについて 4 大磯町立学校修学旅行の件 5 大磯町子ども笑顔かがやきプランについて（進行管理書《平成27年度》） 6 文化財専門委員の委嘱について 	<p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
5月18日 第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼保小中一斉避難訓練及び引渡し訓練について 2 中学校運動会について 3 平成28年度大磯町小・中学校教材費等保護者負担金の訂正について 4 教科書採択のスケジュールについて 5 大磯町民生委員推薦会委員の推薦について 6 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会の開催について 7 大磯小学校灯油配管破損事故について 8 大磯町立学校修学旅行の件 9 大磯町文化財専門委員の委嘱について 10 学校記念誌の切り取り被害について 11 旧吉田茂邸開館に伴う県立大磯城山公園の駐車場料金の改定について 12 旧吉田茂邸の来場者数について 	<p>情報提供・報告</p> <p>出席者の調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
6月22日 第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育委員会の点検評価について 2 教科書採択について 3 中学校給食について 4 町立図書館での事案について 5 大磯小学校灯油配管破損事故及びキャスター付き木製本棚転倒事故について 6 「(仮称)大磯認定こども園新設工事」近隣説明会及び保護者説明会の報告について 7 旧吉田茂邸の来場者数について 8 平成29年度大磯町総合教育会議について 	<p>説明</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
7月20日 第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校給食アンケート調査について 2 神奈川県教育委員会連合会研修会について 3 教育委員会臨時会の開催について 4 教育研究所の移転の方向性について 5 寄附（予定）について（匿名希望で200万円） 6 教育委員会の点検評価について 7 文化財専門委員の委嘱について 8 旧吉田茂邸の状況について 	<p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>説明</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>

月日	項目	内容
7月20日 第4回	9 郷土資料館協議会委員の委嘱について 10 平成29年9月補正予算の計上について 11 平成29年度大磯町総合教育会議について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
8月17日 第5回	1 教育委員会の点検評価について 2 生徒部活動・夏の大会結果について 3 中学校給食アンケート経過について 4 平成29年度市町村教育委員研究協議会の開催について 5 大磯町表彰審査委員会委員の推薦について 6 たかとり幼稚園雨水排水修繕工事について 7 国府幼稚園一部解体工事及び私立認定こども園新設工事等の状況について 8 (明治150年) 事業について 9 旧吉田茂邸の関連事業について～(ミニ企画展、講演会)	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
9月26日 第6回	1 教育委員会の点検評価について(基本方針の委員評価調整) 2 平成29年全国学力・学習状況調査結果について 3 大磯小学校灯油配管破損事故について 4 神奈川県教育委員会連合会研修会について 5 平成30・31年度神奈川県市町村教育委員会連合会役員を選出について 6 (明治150年) 事業について 7 旧吉田茂邸の状況について	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 出席者の確認 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
10月19日 第7回	1 平成29年度予算編成方針について 2 平成29年度教育委員会予算編成スケジュールについて 3 平成29年12月補正予算の計上について 4 いじめ重大事態の発生の疑いについて 5 大磯小学校児童の事故について 6 町立幼稚園の教育時間の延長について 7 第64回おおいそ文化祭の開催について 8 成人式の会場について 9 (明治150年) 事業について 10 ワンネーションカップ2018湘南大会に向けてドイツブレーメンの公益法人と覚書を締結『2市1町(茅ヶ崎市・平塚市・大磯町)広域連携事業』	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
11月16日 第8回	1 大磯町立中学校給食・調理配送等業務委託契約について 2 大磯町教育研究所の移転について 3 第64回おおいそ文化祭概報 4 旧吉田茂邸の状況について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
12月21日 第9回	1 平成30年度当初予算査定状況 2 平成30年度大磯町教育委員会基本方針(素案)	情報提供・報告 協議・調整

月日	項目	内容
12月21日 第9回	3 中学生英文朗読大会（1月20日）のご案内	情報提供・報告
	4 大磯町学童保育クラブ運営業務の受託事業者募集結果について	情報提供・報告
	5 馬場台遺跡の調査について	情報提供・報告
	6 明治150年関連施策について	情報提供・報告
1月18日 第10回	1 平成30年度全国学力・学習状況調査の実施について	情報提供・報告
	2 平成30年度管理職・総括教諭候補者について	情報提供・報告
	3 旧吉田茂邸の国土交通省関係者の視察について	情報提供・報告
	4 旧吉田茂邸の状況について	情報提供・報告
2月23日 第11回	1 小学校指導要録の改正について	情報提供・報告
	2 町立学校におけるインフルエンザ発生状況について	情報提供・報告
	3 卒業式及び文化スポーツ優秀者表彰出席者調整について	出席者の調整
	4 平成30年度教育委員会定例会及び学校訪問日程について	協議・調整
	5 体罰調査の結果について	情報提供・報告
	6 町立中学校の離任式の実施について	情報提供・報告
	7 平成30年度大磯町教科用図書採択検討委員会の調査員について	情報提供・報告
	8 平成30年度大磯町立小学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	情報提供・報告
	9 教育長職務代理者の任命について（任期及び期間）	協議・調整
	10 平成30年度神奈川県市町村教育委員会連合会役員会及び総会の開催について	情報提供・報告
	11 旧吉田茂邸観覧者数10万人達成セレモニーの開催について	情報提供・報告
3月23日 第12回	1 入園式・入学式の出席調整について	出席者の調整
	2 平成30年度教育委員会定例会及び学校訪問日程について	協議・調整
	3 辞令交付式について	情報提供・報告
	4 平成30年度神奈川県市町村教育委員会連合会役員会及び総会の出欠について	協議・調整
	5 平成30年度関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会の出欠について	協議・調整
	6 中学校給食について（契約解除協議の経過、当面の中学校昼食）	情報提供・報告
	7 国登録有形文化財の申請について	情報提供・報告
	8 旧吉田茂邸の状況について	情報提供・報告

(3)総合教育会議

区分	協議事項	月日
第1回	・大磯町総合教育会議について	7月31日（月）

(4)意見交換会・懇談会

①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

平成29年度は未実施

②社会教育委員との意見交換会

平成29年度は未実施

③中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集い・小学校地区懇談会への参加

日 時	平成29年8月5日(土)	
場 所	国府中学校 視聴覚室 (国府中学校地域フォーラム)	
日 程	挨拶 LINEについて グループ協議 学校長挨拶	10:00～ 11:30
教育委員会参加者	教育長、教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	保護者、地域の方、町議会議員、学校教職員等 (講師 LINE株式会社) (参加人数30名)	
フォーラムの主な内容	<p>・この20年間で社会のコミュニケーションの方法や仕事の在り方は大きく変化している。「私たちの当り前」と「子どもたちの当り前」は既に同一ではなく、例えば電話は(携帯電話や番号通知により)「知っている人」からかかってくるのが常識となっている。</p> <p>・こうした時代の変化により求められる力は、場面により深いつながり方と浅井つながり方を使い分けられるコミュニケーション能力となっている。</p> <p>・SNSの普及は、FacebookやTwitterのように、一つの共通項で世界中の知らない個人とつながることができるようになった。その一方でLINEは震災を機に身近な人とのつながりができるようにつくられた。</p> <p>・絵文字1つをとっても、受信者側の解釈は異なり、前後の文脈から(発信者の意図を)想像するしかない点が(コミュニケーション上の)課題である。</p> <p>・(学校教育上)中学生のスマートフォン等の扱いが一番難しいと考える。中学校では、現状学校への持ち込みを禁止するところが多いが、防犯上等の理由により家庭による判断で購入される。家庭の責任ということになる。</p> <p>・しかし、実際にトラブルが発生した場合、人間関係や生徒の育成面で学校の関与(指導)が大きい。また、中学生から高校生になると進学を機会に購入されるケースが多いが、その後の適切な利用には、家庭内での話し合いが十分に行われたかどうかはたいへん大きい。IT化の推進に伴い、より一層使用する側の人間性(モラルスキル)が求められる時代となる。</p> <p>・インターネットの特性により失敗しないために、社会で起きている事例を知り続けることと継続的な指導が必要である。</p> <p>・また、「リアルではない」相手のことをどれだけ理解できるか、何かあった際に相談できる環境づくりの大切さ、人間関係づくり等、学校と家庭とが協力して教育に当たることが肝要である。</p>	

日 時	平成29年8月31日(木)	
場 所	国府小学校第1音楽室(国府小学校地区懇談会「馬場地区」)	
日 程	参加者による懇談	14:40～ 16:00
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	保護者、地域の方、馬場区長、馬場副区長、馬場地区民生委員児童委員、 学校職員等 (参加人数 30名)	
懇談会の主な内容	<p>○防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校～毎月のように避難訓練を行っている。予告なしでより実際に即した訓練も実施している。 ・地域～町の総合防災訓練等に協力して訓練を行っている。今後はお年寄りの安全な避難だけではなく、小さな子どもやペットの安全な避難について対策を立てる必要がある。 ・地域～自主防災組織による機材点検、スタンドパイプ訓練も。 ・地域～馬場地区でHPを開設した。今後、コンテンツの充実を図るので、学校で何か発信したい内容があれば遠慮なく利用してほしい。 <p>○防犯について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校～不審者情報をメール送信、防犯カメラの設置、不審者侵入避難訓練、毎月防犯ブザー一点検等の実施。 <p>PTAより)防犯のことだけでなく、様々な問題で民生委員に連絡をとりたい場合はどうしたらよいか。 民生委員)個人の連絡先は教えていない。連絡は町の事務局(福祉課)を通じてお願いする。</p> <p>○交通安全について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校～地区別に下校指導、DVD教材を使った指導等を行っている。 ・地域～平塚学園近くに横断歩道が設置される。けれども信号はついていないので、安全に注意してほしい。 ・地域～防犯灯の設置要望があれば区長に伝える。 <p>民生委員)通学路で見回ってほしい箇所があれば、教えてほしい。民生委員が協力できる範囲で、見守りできる。</p> <p>○質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬場公園について、公園内の木々が防犯上邪魔になっていないか。 ・馬場公園で昔と同じように缶蹴りやドッジボールで遊ぶ子どもの姿が見られて嬉しい。 <p>↑ゴミが増えている。気付いた限りでは注意しているが、学校でも指導してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の石を蹴りながら登下校する姿も見られる。指導をしてほしい。 ・先日のJアラートへの対応は？ <p>↑学校)町から連絡等が入ると思うので、それに基づいて対応することになる。</p>	

日 時	平成29年9月16日(土)	
場 所	大磯中学校視聴覚室(大磯中学校地域ふれあいの集い)	
日 程	PTA会長挨拶	14:30～ 16:00
	講演「部活動のこれからを考える」青木弘校長	
	教員、生徒、保護者代表によるシンポジウム	
	グループ協議	
	教頭挨拶	
教育委員会参加者	教育長、教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	生徒代表、保護者、地域の方、町長、町議会議員、学校職員等 (参加人数 90名)	
懇談会の主な内容	<p>○PTA会長～部活動に関する書籍を読んだ。さまざまな立場で一緒に考えていきたい。</p> <p>○「部活動のこれからを考える～その2～」部活動担当 茂野教諭より PPT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動とは ・クイズ形式による Q&A ・部活動を巡る課題(教員の人数と部活動の数のアンバランスにより複数顧問制がとれない、多様なニーズと顧問の思いや都合との相違、顧問の生活背景[通勤時間のかなり長い教諭もいる]、教員の肉体的・精神的な過重等) <p>○パネルディスカッション(保護者代表・顧問代表・生徒代表[2年生男子1名・女子1名])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒より～メンバーが少なく、チームとして試合に出て活動ができないのが悩みである ・生徒より～チームの人数により、その中での競争もある。また予算面での悩みもある。 ・顧問代表より～自分の専門でないスポーツの顧問となることもあり、それぞれそのスポーツについて各自で個々に勉強しているという実態はある。 ・保護者より～いろいろな場面で協力をしていきたいと考えている。 <p>○グループ協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒より～今回のこのような会で、さまざまな立場の人から意見やアドバイスをもらうことができたのはとても良かった。これからも考えていきっかけにしたい。 	

(5) 訪問

①学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	大磯中学校	
日 時	平成29年5月18日(木) 12:40～16:30	
	給食試食	12:40～13:00
	開会	13:10～13:20
	授業参観	13:30～14:20
	学校教育活動の概要説明	14:30～15:20
	職員との懇談	15:30～16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、各グループリーダー、養護教諭、事務主査	
懇談会の主な内容	<p>【学校教育活動の概要説明】・生徒達はとても落ち着いて生活している。・評価をつける難しさがある。教員の取組みと、生徒・保護者が望むものとの間にギャップがある。 ・大磯中学校グランドデザインより・学校運営組織について・学校評価アンケートについて・全国学力・学習状況調査について・教職員の負担軽減への取組み</p> <p>【職員との懇談】 ◇先生の話にとても集中していて、いい緊張感がある授業であった。ただ、お休みの生徒の席があったが、今の状況はどうか？ →小学生の時から不登校で、今でもなかなか解決できていないケースもある。それぞれの事情に寄り添って対応していきたいが、本人と会うのも難しい事案もある。全国的に不登校やその先の引きこもりは課題である。世の中のしくみの何か子ども達にも影響していると感じる。家にいてもパソコンがあれば過ごせる環境である。もっと組織作りをして、人手も確保し、福祉のシステムを構築することが必要かと思う。また、学校に来ていても、教室に行けないケースもある。 →2年生は小学校から不登校のケースもあり、家庭訪問等も続けているが、保護者が疲れてしまっている事案も多い。スクールカウンセラーや、適応指導教室など、行政にもっとお願いしたいと思う。(今年度から町のSSWを配置) ◇ニートの問題が出たのは20年も前。今も変わっていないし、ずっと保護者は苦労している。国レベルで変えていかないと難しいと思う。 ◇毎年参観しているが、昨年ともまた違っているし、また新たな感動や驚きがある。音楽の歌の授業も楽しそうであったし、英語ではAETの先生と生徒が英語でやりとりをしていた。 ◇昨年度の進路状況はどうだったか？ →全員が卒業式までに進路を決めることができた。併願のなかった生徒も無事に第一希望に受かった。特別支援級の生徒も希望通り。就職した生徒はいない。 →大磯中には「学習支援室」があるが、先日、そこで学習して卒業した生徒に会った際、「いろんな生き方があっていいと思える学校で良かった。就職活動は大変だったが、そのおかげで乗り越えられた」と言っていた。今、不登校で登校できない生徒にも、何らかのチャンス伝えたい。今、外に出られる子と、全く出られない子がいる。家庭での暴力はない。傾向としては男子のほうが多い。サポート校や、新たに県立のクリエイティブスクールもできたが、学費が高かったり、倍率が高くて入りにくい。不登校の生徒には、学校からの声掛けや家庭訪問、進路指導でよい方向にもっていきたいが、本人の成長が必要な場合もある。 ◇教務主任はどんな役割を担っているのか。→時間割や年間予定など、校内の調整をしている。 ◇年々、先生たちの様子も変わってきた、楽しい学校になっている。話し方も変わってきた先生もいるので、自信を持てたのかもしれないと思う。 ◇先生たちの多忙な様子がよく分かった。状況を変えるには捨てることも必要だが、そうやってトライして環境が良くなれば変化していけると思う。 ◇道徳について、どのように取り組んでいるか？ →今は学年ごとに教材について話し合っている。「いのち」の研究の委託があって研究した時、自己肯定感が低い生徒が思ったより多かった。 →授業中も、自信がないのか、挙手ができない生徒がいる。もっと自信を持たせたい。</p>	

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成29年6月22日(木) 12:30 ~ 16:30	
	給食試食	12:30~13:00
	開会・懇談①	13:10~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談②(グループ別)	15:00~16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>【概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制～複数の教員で子ども達を見るようにしている。 ・インクルーシブ教育～通常級で教室にいるのが難しい児童も増えているが、校長室等でクールダウンして教室に戻るようにしている。特別支援級に空調がない。 ・単年度学級編制～毎年クラス替えを行っている。いろいろな子と友達になってほしい。高学年の児童には、校長が直接話をした。 ・地域の教育力～水曜日の放課後子ども教室の時間を30分増やした。水曜日に30分早く子どもを下校させることで、教職員の多忙感の解消にしたい。 <p>【学校研究】 <学校研究 道徳>自分の思いや考えを伝え、他者の思いを受け止められる子の育成</p> <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけでは課題を解決できない子どものケースが増えている。 担任→委員会(1年に3回)→就学委員会(年に4回)で相談している。 ・教育相談日を月に1回設け、校内にも掲示している。 ・毎月1回、いじめアンケートを実施。「ある」と書いた児童に聴き取り調査を実施。 ・担任が一人で抱え込まない体制づくり 指導協力員(2名)による個別学習室への通級児童は30名。指導協力員の増員を望む。 ・SA SC SSWが巡回相談に来校し、不登校のケース会議を開いている。 ・支援シートの作成 <p>【懇談】(各グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスペースについて ・新たに始まる外国語活動・特別の教科 道徳について ・教室の暑さ寒さについて ・インターフォンについて ・教職員の多忙化、メンタルヘルスについて ・施設や人員の件 	

訪問学校・園名	国府保育園	
日時	平成29年7月20日(木) 13:15 ~ 14:45	
日程	開会	13:15
	保育参観	13:15~13:45
	職員との懇談	13:45~14:45
	閉会	14:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	園長、園長補佐、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p>【国府保育園の保育実践について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長(町立幼稚園と兼務)と約40名の職員がシフト性で月曜日～土曜日まで、朝7:00～19:00まで勤務している。・昭和30年に開園。現在は95名の子どもが生活している。・1)のびのびと元気な子ども 2)思いやりのある心豊かな子ども 3)自分で考え判断して行動できる子ども +「食育」。残さず食べることが身についている。・育児を抱え込まないよう、保護者を支援し、きめ細かな対応を心がけている。・就学相談も学校教育課とタイアップしている。・認定子ども園もできるが、保育園のいいところをアピールしていきたい。 ・1)家庭のような温かい雰囲気の中で保育を行い、集団の場を利用して一人ひとりが自発性・社会性をもてるようにしていく。2)健康と安全を心がけ、生活のリズムに沿った活動と流れを大切にしていく。 ・平成29年度園内研究会の取り組みは、「異年齢保育」～人との豊かなかかわりの中で、共に育ちあう保育を目指して～ <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1歳児～最初は泣いていたが、少しずつ慣れてきて給食もおやつも食べられるようになった。プール遊びは、水を怖がっていた子も、最初は洗面器の水に顔をつけることから始め、慣れてきた。朝のミーティングで体調伝達会議をしている。保護者と連携し、全体で見守り。 ○2歳児～個人差はあるが、自分でできることは自分でやるように指導している。 ○3歳児～昨年度からできることはなるべく自分でやるようにしてきたが、今年度、2階から1階に下りてきて、当番や係を意識的に取り入れ、年中や年長児の姿も見せている。 ○年中～薄味で、素材を生かした保育園の給食を残さずによく食べている。 ○年長～23名。細かい所も含め、指導をするようにしている。得意なことは褒めて持ち上げるようにしている。 ◇年長児の活動で、友達の話聞き、思いやりや信頼を育てている場面を見た。0歳児からどの学年でも取り組んできていることだと感じた。 ◇キャンプファイヤーについて発表している教室があった。それぞれの感性が違っていったが、先生の助言がとても上手であった。 ◇長い保育時間の中で、それぞれに合った教育をしていくのは大変かと思うが、保育園は縦割りの良さを学べると思う。それが将来に生きてくると思った。 ◇親も安心できて、先生たちにも安心して働いてほしい。それには余裕をもって子どもに接するようにしてほしい。今日は素敵なクラスを見ることができた。 ◇小・中学校の先生たちにも、原点に戻って保育の様子を見て欲しいと思った。 ◇給食について～ ・自校式で温かく、美味しい給食である。アレルギーの子もいるが、町の栄養士がきめ細かく乳児ひとり一人から面接を行い、給食を作っている。離乳食も段階に合わせてその子にあった食事を無理のないようにすすめている。園でも野菜を育てている。 	

訪問学校・園名	国府幼稚園	
日時	平成29年9月26日(火) 13:15 ~ 15:20	
日程	開会	13:15
	保育参観	13:20~14:00
	職員との懇談	14:20~15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について】</p> <p>・昭和34年から59年間続いた幼稚園が還暦を迎える前に統廃合となった。保護者も含めた法人の選定があり工事も行われているので、いつもより慎重に保育をしている。今まで通りの保育・クラス経営をしていきたい。年少が15名・年中が17名・年長が21名の合計53名に、園長(保育園と兼務)・教頭・担任3名・支援員が2名・校務整備員が1名・サポーターが3名。職員はお互いに認め合い、連携ができています。平成28年に「資質向上研修」を行ったことで、よりいい保育を求めるようになった。統廃合や工事については説明会を行ってきたが、「説明が遅い・聞いていない」等のご意見が寄せられた。園長・教頭・クラス担任がなるべく頻繁に「お便り」を出すようにしている。園児達は思ったより順応性があり、狭くなった園でものびのびと遊びを見つけて楽しんでいる。説明会には70組が来ていた。公立幼稚園とは何かを考えているところである。</p> <p>・工事のこともあり、日々の保育を今まで以上に気を配ってやっている。</p> <p>・「資質向上研修」、県の「公開保育」を行ったことで、学び合う姿勢もできた。週案・日案を工夫する中で、何を学ばせたいのかを日々追って記入したり、ふりかえりを積み重ねたりしてきた。先生、そして子ども達が変わっていった。他の園にも紹介し、お互いを見合うことで、さらに学び合うことができた。表面的には変わらないように見えても、先生たちの意識の変化で、全体が変わっていると感じている。</p> <p>【懇談】</p> <p>◇子ども達といると無条件に笑顔になれる。年中組で流行っているファッションショーは、男女で何か違いはあるのか。→ファッションショーについても男女が分け隔てなく遊んでほしいと考えている。</p> <p>◇今までと変わらず落ち着いていた。来年度から先生たちも代わってしまうことを子ども達は知らないのかもしれないが、園の敷地が狭くなっても子ども達はかえって距離を縮めたようで、よく遊んでいた。子どもにとって大事なものが残っていれば遊べるものと考え。地域に大切にされている幼稚園だと思う。今も園庭で野菜を育てているし、月に一度は地域のお年寄りを招待している。</p> <p>◇規模もほどよく、細かい部分までよく見ていると思う。研修とはヒントをもらえるよい機会だと考える。</p> <p>◇これからも成功体験をぜひ積んでほしいと考える。</p> <p>◇町が幼・小・中を通じて大切にしている「聞く力」はどうか？</p> <p>→課題もある。3歳児の頃から、遊びを通して身に付けさせたい。</p> <p>◇先生たちのおかげで、工事中にもかかわらず、とても落ち着いていて、きめ細かな指導しているのが分かった。</p> <p>*園は平成30年3月25日に終了式を行い、31日までに引っ越しと引渡し</p>	

訪問学校・園名	大磯町立国府小・中学校生沢分校	
日時	平成29年10月19日(木)13:30～15:45	
日程	開会	13:30～13:35
	授業参観	13:35～14:20
	職員との懇談	14:45～15:45
	閉会	15:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>【学園・分校の概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉と教育の分野を協力しながらやっている。 ・朝8:00から3つの寮を教員が訪れ、前日の放課後から朝までにあったことの聞き取りをして、それを朝の職員会議で共有し、朝礼にも反映させている。9:10には寮での打合せもしている。 ・Chance/Challenge/Changeが目標であり、さまざま事情で分校に来た生徒達にそれぞれの目標をもたせ、その課題をクリアしてから地元に帰すようにしている。 ・国語・数学・英語は週1回の習熟度別授業、理科・体育・社会は週1回のオール授業 ・多くの行事を取り入れ、生徒達のモチベーションを高めるようにしている <p>【全体懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇以前より複雑な事情で入所してくる生徒が増えたと感じる。先生がたの努力を感じる。 ◇運動会での活躍ぶりを見た。人数が少ないせいとか、一人一人に注目が集まり、照れくさそうな様子も見られた。勝てないとあきらめてしまう姿を見て、大人がその心情をよく理解していかなければならないと思った。寮と学校との連携や、きめ細かい対応を感じた。 ◇子どもと先生との距離が近く、いい教育実践をしていると感じた。生徒にとってもいい時間を過ごしていると感じる。先生たちの努力を感じる。小学校の授業において、先生たちもとてもいい表情をしていた。 ◇先生たちが様々な工夫をしていて、生徒が授業に引き込まれていく様子を見ることができた。 <p>(授業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校の算数では、ボーリングゲームを通して数の習熟を図った。ルールを学ぶ機会にもなっている。トラブルもあるが、その都度、ふりかえりをさせている。ゲームについては、子どもと先生との競争はあるが、子ども達同士で過度の競争をさせないようにしている。今日のような取り組みは、11月の研究授業でも行う予定である。 ○英語の授業では、今日は多くの会話練習ができた。途中で入所してくる生徒もすぐに慣れて、スムーズに授業に取り組んでいる。 ○音楽について、モチベーションが低いまま入所してくることが多いが、ピアノやドラムに取り組ませると、とても積極的になる。今日は担任の支援もあり、落ち着いて授業を受けていた。 ○国語について、自分の思いを語るのが苦手な生徒が多いが、俳句に取り組んでいるうちに書けるようになってきた。 ○美術について、他の学校ではなかなか取り組めないことにもあえて挑戦するようにしている。 ○数学:なるべく短くわかりやすい言葉を使うようにしていること以外は、他の学校と同じである。 ○家庭科:実習を多く取り入れている。自分で料理したものを食べる喜びもある。だぶらないように配慮しながら、分校にいる間に一回は経験する機会を持つようにしている。 ○小学校でやるような基本から始めることも多いが、見栄えのよいものを作り、掲示したりしている。 ○技術:技術が好きな生徒が多い。週1回の授業を楽しみにしている。特に、寮で使える本棚には一生懸命に取り組んでいた。ノコギリやハンダゴテなどは、多くの先生の支援のもとで使用している。 ○社会:写真を多く使い、気づき生まれるように工夫している。社会は書くことが多くて大変なところもあるが、「今日は何をやるの?」と楽しみにしている生徒もいる。 ○体育:自分のペースで運動をしている。人数が増えてきたため、特に球技のルールを徹底させる難しさも出てきた。 ○保健室より:シップや絆創膏を使用する以外はあまり保健室の利用はないが、できるだけ授業に入って生徒の様子を見ながら支援している。 	

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成29年11月16日(木) 13:20 ~ 16:00	
	開会	13:20~13:30
	授業参観	13:35~14:25
	職員との懇談	14:40~16:00
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明】</p> <p>【学校研究】11月24日(金)に公開授業を行い、帝京大学の草川先生に講師をお願いしている。2年生は毎朝7分間、文学作品の試写を始めた。国語の「書く力」や、数学の基本的な計算の力に課題がある。「聞く力」をつけるために週に1回、学年朝会で教職員が話をしている。また、小中の接続も大切であると考えるので、3学期も小・中がお互いの授業を見合って協議をする機会を大切にしたい。</p> <p>【教育相談関係・生徒指導】不登校や教室に入れない生徒のため、いくつ教室があってもいいと考える。かつてほど不登校は多くなく、1年が1名、3年に2名。ただし、遅刻・早退の生徒も増えつつある。学習において基礎力のない生徒が多く、個別取り出しで対応中である。担任・主任・養護教諭・SC・SA・SSW・児相・保健福祉事務所・町の子育て支援課等とチームで連携することもある。</p> <p>【施設面】昭和55年の施設で、体育館の耐震工事は終わったが、破損や壁のはがれ等がある。ミシンも古いため、来年度9台の予算要求をしている。働き方改革について事務職員は言われていないが、先生たちの負担が変われば事務職員の仕事も効率化が図れると考える。4校の事務連携組織と共に考えていきたい。</p> <p>【防災】防災意識が高く訓練にもきちんと取り組む。今の中1が3・11の時は幼稚園であり記憶も薄らいでいるようだ。</p> <p>【健康面】保健室の利用は年々減っており、今は休み時間に来るのみ、学校全体は落ち着いている。ただ課題から逃げてしまう傾向があるので、経験や調整をさせたいと思う。心の教室相談員や、SC・SA・SSWの存在が心強い。教室に行けない生徒もかなり助けられている。</p> <p>【懇談】</p> <p>◇教育は「夢」と「希望」だと思うが、3年4組の掲示には「夢」のほうが多かった。</p> <p>◇落ち着いてグループ活動も行ってた。先生のほうを見ていない生徒もいたが、その年齢なりの元気が少ないとも思う。地域性なのか。昔は荒れていた時代もあったが、今は落ち着いているというか、元気がないのかと思う。</p> <p>◇小学校の頃と比べ、おとなしいと感じるが、不登校もいると思う。働き方改革においては、自分の時間を確保するために先生の意識を変えることが大切と考える。</p> <p>◇社会の変化もあり、先生たちの苦労もあるかと思う。1・2・3年生で差が広がっていると感じる。3年生は進路の前で大変であろうが、おとなしいという印象を受けた。</p> <p>◇運動会も落ち着いていたし、校内の子どもの作品も良い。学習の環境が整っている。不登校の生徒にどう対応していくのか。また今後、演習活動のための手立ての工夫も必要。準備は大変かと思うが、今までやってきたものに手を加えるだけでも違う。</p> <p>◇家庭弁当が始まったが、緑の野菜が少なく、自分の好きなものを入れてきていると感じる。嫌いなものに向き合わないため、昼の時間は和やかである。個別のケースを見ても給食は有難かった。</p> <p>◇給食も一見落ち着いていて(家庭では大変かもしれないが)、実際のところは分からない部分もあるし、中学生なりにいろいろ感じたり気を遣ってるところもあるかもしれない。</p> <p>◇今は「ふりかけ」をかけて家庭弁当を食べている。スクールランチではなかった。今は揚げ物が多いと感じる。コンビニ弁当はいないが、おにぎりの子はいる。次は牛乳からでも手をつけるとよい。色とりどりのお弁当をその子の量で持って来ている。指導は楽にはなった。</p> <p>◇保護者からは、子どもが楽しそうなので、お弁当づくりを頑張っているという声もある。準保護や要保護の生徒の様子はどうか？</p> <p>→他の生徒と変わらない。心配な様子もない。</p> <p>◇コンビニ弁当の生徒はいないし、むしろ高くつくので手作りしているようだ。ある時期は好きなものを好きだけ食べるという考え方も一つである。</p> <p>◇大磯も二宮も同じように野菜がたくさんある給食だが、なぜ大磯の生徒が食べないのか考えることもある。地域の特性なのか、この違いは何なのか。好き嫌いなのか。4月から、とてもよくなったし、9月からはさらに良くなってきていた。休止になって残念だ。当初の印象があるのかもしれない。</p>	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成30年1月18日(木) 12:20 ~ 16:50	
日 程	給食試食	12:20~13:00
	開会・挨拶・教育活動の概要説明Ⅰ	13:05~13:35
	授業参観1(モジュール)	13:35~13:50
	授業参観2(5校時)	13:55~14:40
	教育活動の概要説明Ⅱ	15:05~15:35
	職員との懇談	15:40~16:40
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教職員	
懇談会の主な内容	<p>【教育活動の概要について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童について～全校生徒890名 4年生は160名(4クラス)。いじめの早期発見、毎月100件近くを洗い出す・教職員について～20代・50代が多い。5年未満も10名。働き方改革～18:00までの電話対応 校務PCを活用することが定着(打合せをなくした)。教育支援員・指導協力員の配置。研修を受けたり他の授業を見るなど、先生も育てていきたい。・「平成29年度全国学力・学習状況調査」について～全国の平均より上である。特に算数の基礎はよい。ただし、もっと考える力をつけさせたい。質問紙で、話し合い活動については反省すべき部分があった。12月に全職員で共有した。 <p>【支援教育】・別室での取り出し授業について～16名の児童が国語や算数を学習。学習の遅れや不登校に対応するため。指導協力員2名が週3日(午前中)勤務。・教育支援員10名(通常級4名・特別支援級6名)児童が安心して授業が受けられる。・スクールソーシャルワーカー(SSW)が、家庭に課題のある児童のケースの道筋を調整</p> <p>【教育課程】・平成30年度から「特別の教科道徳」32年度からは外国語。求められることは増えているが、働き方改革もある。運動会や音楽会もさかんな学校ではあるが行事の精選も考えている。校務支援ソフトがあるとよい。</p> <p>【児童指導・地域】・規範意識を持たせたい。(登下校の歩き方(広がって歩いてしまう)・道路からの飛び出し・公園で迷惑をかけてしまったこと)・校内で廊下を走ってしまうこと。根気強く教え、自分を律する力をつけさせたい。・全体としては落ち着いているが、細かいところにも気を配っていく。</p> <p>【保健・食育】・毎日約950食を作っている。アレルギー27品目以外。虫・ビニール片・骨の混入2人体制でチェック。・1年～6年生まで、栄養教諭が授業を行っている。・みかん、ねぎ、だいこん等を使って大磯産品デー・神奈川県産品デーを年に2～3回。</p> <p>【学校研究】・平成28年から道徳を研究。29年度はよりしぼって研究。平成30年度の教科化に向けて、ポートフォリオを始めた。・全体発表を低・中・高学年の3ブロックに分けて年に3回。</p> <p>【グループに分かれての懇談(主な意見)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えいごリアン(モジュール)について～どの学年も一生懸命見ている。低学年は登場する人の動作を楽しみ、高学年は言語を楽しんでいるように見えた。1～6年生の成長が見られる。意識づけのためにこのような放送は良い。・外国語について～他の市のように、中学校の英語の先生が来てくれるとよい。教科化に向けて、自分の英語も含め、不安がある。大磯町はAETがいるのがとてもありがたい。・道徳の教科化～心情メーターを使った授業の例。育ちの環境で表現が違うと感じる。・多忙化について～保護者対応や、道徳や外国語の教科化など、やらなければならないことがたくさんあり、どこをどう精選していけばいいのかが難しい。働き方改革はどこまでやればよいのか悩むが、自分の能力も上げていかなければならないと感じる。・支援が必要な子どもが増え、子どもの学習や情緒の状況の変化や保護者の価値観の変化もあり、どこまで対応すればよいか難しい。スクールソーシャルワーカーの配置を増やしてほしい。また、高学年の児童にカウンセラーの配置なサポートもお願いしたい。 ・支援の必要な子どものために、冷暖房設備など、教室環境の改善をお願いしたい。 ・体力向上のための教材・教具の購入や、ICT環境の充実、算数に少人数制を取り入れるなど、さらに検討をお願いしたい。体育や算数が苦手な子に、どうサポートしたらよいかを工夫したい。 ・子どもの心のつかみ方、授業の工夫、ノートの取り方、悩みごとに対応する方法など、各学年で協議する機会となった。 	

訪問学校・園名	大磯幼稚園	
日 時	平成30年2月23日(金) 13:15～15:30	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:30
	閉会	15:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	教頭、全教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践】 大磯幼稚園の「教育目標」は、「1:友達と仲良く遊べる子ども。2:体を動かして元気に遊ぶ子ども。3:自分で考え進んで行動できる子ども。」である。散歩に行く・地域の自然に触れる・身体を使って遊ぶ・食育の推進・異年齢交流・支援教育・主体的に取り組む遊び、を今年度の目標にしている。</p> <p>【懇談】 ◇園児を見ていると、とても元気をもらえる。友達と会えるのを楽しみに登園してくるのはとてもいいことであり、家では体験できないこともできる。年長組で、小学校入学への不安を感じている子はいるのか。 ○今回大磯小学校の「園児を迎える会」に行き、また昨年秋には小学校に「給食」を食べに行ったことで入学をとても楽しみにしている。小学校との交流ができています。 ◇子ども達がよく挨拶してくれた。作品(雪だるまや家)にも温もりが感じられた。日頃の先生たちの努力が形になっていた。 ◇子どもたちの雰囲気がとても良かった。幼稚園が好きで登園してくるというのは、保護者にとっても嬉しいことである。作品が学年が上がるにつれてグレードアップしていた。 ◇作品の発想がとても豊かである。先生たちの連携もできていると思う。ただし園の建物自体は古くなっていると感じた。 ◇町では、幼小中の連携に今年度も取り組んできた。教育研究所にも幼小中の先生全員が参加して情報交換を行っている。今年は年に2回の小中の連携日を設けたが、効果があったと考えている。小1ギャップや中1ギャップのこともあるが、この町では教頭会でも学校長等の経営者会でも管理職同士がよく連携しあっている。 ◇先生たちが愛情をもって子ども達に接しているのがよく分かった。これから卒園・入学と、お別れする悲しみや出会う喜びの季節になるが、それらを繰り返しながら子ども達には成長をしてほしい。</p>	

②行事等

行事名	月日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	5月27日(土)	大磯中学校
	6月3日(土)	国府中学校
	9月16日(土)	国府保育園
	9月22日(金)	国府小・中学校生沢分校
	9月24日(日)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園
	9月30日(土)	国府幼稚園
	10月7日(土)	大磯小学校・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月21日(土)	大磯中学校文化祭
	10月21日(土) 10月24日(火)	国府中学校文化祭
	10月28日(土)	いそっこフェスティバル
	11月18日(土)	国府保育園保育発表会
	11月23日(木)	おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月14日(木)	国府幼稚園保育発表会
	12月15日(金)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園保育発表会
卒業証書授与式 ・修了証書授与式	3月9日(金)	大磯中学校・国府中学校
	3月12日(月)	国府小・中学校生沢分校
	3月15日(木)	国府幼稚園
	3月16日(金)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園
	3月20日(火)	大磯小学校・国府小学校
	3月24日(土)	国府保育園
生涯学習	平成29年3月26日(土) ～5月7日(日)	旧吉田茂邸落成記念企画展 「吉田 茂 ―その生涯と大磯―」
	7月15日(土) ～9月3日(日)	企画展「ようこそアオバト楽会(がっかい)へ ～新たに解明されたアオバトのふしぎ～」
	9月5日(火) ～9月21日(木)	ミニ企画展「大磯の災害」
	10月21日(土)	第64回おおいそ文化祭
	11月12日(日)	第16回大磯図書館まつり
	10月21日(土) ～12月3日(日)	企画展「大磯別邸城山荘 ―三井高棟が遺したもの―」
	1月8日(月・祝)	成人式・新成人記念のつどい
	2月3日(土) ～3月31日(土)	春季企画展『ちょっと昔の暮らしと道具』
	3月25日(日)	大磯Challenge Live
その他行事等	11月11日(土) ～12日(日)	子ども作品展
	10月29日(日)	小・中学校音楽会
	1月20日(土)	中学生英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

(6)その他の活動

①神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会

日時	平成29年4月14日(金)
場所	大和市生涯学習センター
参加体制	教育長、事務局職員随行
内容	11:00～11:45【総会】 1)平成28年度事業報告及び収支決算 2)平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案) 3)その他 11:45～12:45【意見交換会】

②関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成29年5月26日(金)
場所	やまと芸術文化ホール(大和市)
参加体制	教育長、教育委員3名、事務局職員随行
内容	13:15～13:40 開会式 13:45～14:15【総会】 1)平成28年度事業報告・会計決算 2)平成29年度事業計画(案)・会計予算(案) 3)会長、副会長及び監事の選出・理事の選任 14:30～16:30【研修会】 1)講話 ・演題「教育委員会制度の現状について」 ・講師:文部科学省初等中等教育局企画官 吉田 光成 氏 2)記念講演 ・演題:「知らぬは大人ばかり ～大澤流子ども論～」 ・講師:弁護士 大澤 孝征 氏 16:35～16:45 閉会式

③神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成29年10月31日(火)
場所	やまと芸術文化ホール(大和市)
参加体制	教育長、教育委員3名、事務局職員随行
内容	14:00～16:00【講演会・質疑応答】 演題「道徳の教科化について ～教科化の背景と今後の展開～」 (横浜国立大学名誉教授 高橋 勝 氏)

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り、年度初めに計画された定例会は公開され、臨時会も必要に応じて適宜開催された。会議開催の予定は町広報誌やホームページを通じて周知に努め、傍聴者の参加もあった。また、会議開催後は議事録を公開した。	会議の予定や議事内容の公開をより早くするように努め、関係者のみならず、より多くの地域住民との問題点の共有、解決に努力していく必要がある。 ホームページ上での議事録公開は評価できるが、会議の予定や議案について、より多くの地域住民に周知が図られるよう効果的な周知方法を更に研究する必要がある。
②教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	A	中学校給食、いじめ問題対策等、様々な事案をそれぞれが事前の勉強会等で情報の速やかな提示の基に十分検討した上で、会議に臨み、予算や教科用図書採択等の付議案は、各委員が意見を出し合い、慎重な審議を経て適正な意思決定がなされている。 特に、昨年は中学校給食問題に関しては、学校関係者、PTA、生徒の意見を聞き、問題解決に努めたが、給食実施についての運営等が十分とは言えず、大きな町の問題になってしまった。今後は、早急に方向性を示し、改めて、意思決定がなされるよう努力していきたい。	中学校給食問題を除いては、会議の開催にあたっては、多岐にわたる案件に対し、内容を十分に把握すると共に確実に理解した上で適正な意思決定に努めている。 今後共、各委員が事案内容を十分に理解し活発な意見交換を行い、可能な限り全員が納得するまで協議していく努力をしたい。特に、複雑な案件は事前の資料提供や勉強会開催に努め、議論を尽くした意思決定に繋げたい。 また、緊急を要する事案については、その性質をしっかりと見極め速やかに協議していくことが望まれる。
③教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	B	大きな問題となっているいじめ問題、中学校給食問題など教育行政の責任の所在を明確にし、諸問題への必要な予算要求や対応はなされている。なお、いじめ問題に係る小学校の道徳教科用図書採択や中学校給食への対応等は、丁寧な議論に努め方向性を示すことができている。今後は更に中学校給食問題を中心とした基本方針の確立と方向性を示していきたい。	いじめ問題の防止などは、早期発見・早期対応が望まれるのは当然であるが、学校、家庭との連携づくりが、急務である。いじめなど早期対応を要する事案が発生した際には、臨時会を開催するなど、速やかな情報提供と情報共有により十分に議論する必要がある。 また、中学校給食の実施など教育施設の様々な課題については、その解消へ向けた方向性を迅速に示し、実現へ繋げたい。
④教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	A	会議は自由に傍聴できることから、議題によってそれぞれの関係者や地域住民が参加している。年間の会議開催のうち3割程度を大磯町役場本庁舎以外の場所に設けているが、なかなか会議の傍聴に訪れる方が少ないため、より会議傍聴に訪れやすい環境、身近に感じられる場づくりの必要がある。	議題によっては、傍聴者の多少の違いはあるが、議題は会議開催前に周知し、議事録も公開されている。 また、会議の開催場所を町内に分散することにより、地域住民との交流の機会を多くし、町の教育に興味関心をもっていただき、会議が地域住民の身近なものとなるよう、これまでの創意工夫を継続していくことは大切である。
⑤総合教育会議において調整が行われた事項について、尊重して教育行政を行っているか	A	総合教育会議設置から三年目を迎えたが、教育大綱に則って議論を深めていく中で、問題点もいくつかあげられてきた。 スクールソーシャルワーカーの配置、教育支援員の増員等、早急に教育行政に反映させ解決したいことが、町長と教育委員会が教育施策の方向性を共有し、一致して執行することで、いち早く実行されつつある。 「信頼関係による学校づくりの実現」をテーマに課題を共有し、教育環境の改善に向けて研修のあり方や校務の軽減など研究を重ね、施策に反映させている。	総合教育会議で策定された大綱をどのように具現化していくのか、学校、家庭、地域の三者の信頼の構築が課題となっている。 町の教育の未来像と現状における課題は、教育行政の推進のために町長と共有し施策として形にしていきたい。 そのためには、学校現場の意見も尊重し、現場で必要とされるものをしっかりと見極め、より具体的な課題に取り組む必要がある。
総合評価	A	教育委員会議は、法律規則に則り、教育行政の円滑な運営のために、必要に応じて事前の勉強会などが適切に行われたと言える。また、地域の様々な多様化する課題に対応して、必要に応じた議論が行われ改善に役立っている。総合教育会議とともに町民にとって身近な会議となるよう方策を検討したい。 今後は、地域住民や学校との交流の中から埋もれている課題の発掘や総合教育会議における今日的諸課題に目を向け、より開かれた会議を目指していきたい。 また、中学校給食に関しては、この先、町民、関係者への早期の情報提供が望まれると思われるが、なるべく円滑に運べるよう心がけたい。	

(2) 事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①必要に応じて、適宜、開催されたか	A	教育委員会議の事前準備として多岐にわたる案件の情報提供や報告が以前に比べ速やかに行われ、確認や調整の場として有効に開催された。 事件事故についても経過報告や議論が十分になされるなど、教育委員が情報を共有し円滑な活動が可能となっている。	社会の急激な変化や多様化する諸問題に対する対応については、速やかな情報の提供と共有化がより一層求められるが、事前協議の場に今後も引き続き、多様化する諸問題に対応するため、可能な限りの情報の提供に心がけ、更に課題を共有していけるよう努めたい。
②勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	教育委員会や総合教育会議の点検評価、基本方針の策定等、十分な準備を要する案件では、オープンな情報提供により、時間をかけて協議をし、会議の確認や調整のよい機会となった。 また、いじめ問題に端を発した道徳の教科用図書採択や予算に関する勉強会などを通して、子ども達が抱える今日的課題や町の教育環境向上に向けた施策の課題を理解することができた。	教育行政の成果は、多くの場合、すぐに現れるものではないが、将来を見据えた教育を念頭に置き、様々な課題を得よう努めたい。 また、多岐に渡る諸問題や複雑な案件への理解と適正な審議の材料として、今後も引き続き情報提供を継続してほしい。 なお、複雑な課題には、多くの関係者を招集しての意見交換の場が必要と考える。
③次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか	A	議案やテーマについて、事前の情報提供や丁寧な説明がなされ、協議や付議の流れを理解することで、議論を深めることが可能となっている。特に総合教育会議の場合は、勉強会を通して議案やテーマへの理解を深めることができ、協議の内容に深みがあったように思う。	重要な案件や複雑な案件など時間をかけた協議を必要とする案件は、それぞれの案件への理解、論点を整理し、協議を深められるよう、引き続き余裕をもって事前に勉強会を設けるなど、教育委員会議の適正な意思決定へ繋がる会議としたい。
総合評価	A	議案の予告や勉強会にとどまらず幼児教育・学校教育・生涯学習と多岐に渡る情報提供や報告など、会議の円滑な運営のための努力は十分に払われている。今後は更に多岐に渡る情報を正確に伝えることで、重要案件などの課題に対してスピーディで適切な判断と対応により、更に教育委員会議の活性化に努めたい。 なお、教育を取り囲む環境、法令等が著しく変わる問題については、先を見据えた中で適切な対応が必要である。	

(3)意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①懇談会等を通して保護者や地域住民と課題を共有することができたか	B	<p>児童生徒をはじめ学校を取り巻く今日的な課題について、様々な立場の方々の意見を全て集約することは難しい面もあるが、懇談会等では、講師や地域からの参加者などがそれぞれの立場から意見を出し合い共有することができ、お互いの理解を深める場となった。会合では意見交換する大切さ、話し合うことの有意義さを改めて確認しているが、今日的課題として抱える問題点の多くは、本質的に十分な議論まで至っていない。</p>	<p>懇談会は、各学校の現状に対し保護者や地域の方々など多種多様な立場からの意見が共有できる機会となっている。</p> <p>子どもたちを取り巻く社会の変化は、大人でも理解が及ばない部分がある。懇談会では多くの情報や意見が寄せられるが、「子どもが主役」であることを視点におき、更に議論を深めていく必要がある。</p> <p>そのためには、会議の回数や時間を増やすことも必要である。</p>
②懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	<p>地域住民や傍聴者の思いが伝わってくる意見交換が出来たが、実行となると難しいものもあり、多くの課題が残されている。</p> <p>部活やSNS、防災など社会全体で課題となっているテーマが設けられており、教育委員会においても既に課題として話し合われている内容もあり、学校現場への助言等に繋げることができている。</p> <p>今後とも様々な意見を集約して、最も重要な案件は行政に生かせるよう努力したい。</p>	<p>懇談会等で得られた情報や意見は、今後の課題として、多くの場合、有意義なものが多くあったが、短時間で決まるものではないので、町独自の考え方も必要になってくる時期でもあると感じる。</p> <p>P T Aを中心に色々な立場の方々から情報を収集し、課題を多面的に捉えて解消に繋げたい。</p> <p>懇談会については、課題を知る良い機会なので、様々な場でより多く開催されることが望ましい。</p>
総合評価	B	<p>意見交換や懇談会は、問題を共有すると同時に、保護者や地域の方々と直接対話することにより、相互の信頼の場となっており、意見を教育行政に反映する貴重な場であることから、これからの活動についても、積極的に対応する必要がある。</p> <p>学校や保護者が抱える問題を地域の方々とも共有し意見交換することで、その後の意思決定の材料となった。また、町子ども達を皆で見守り育てるという意識の醸成に繋がっており、子どもを取り巻く環境を良くしていけるよう努めたい。</p>	

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	A	それぞれの園や学校への訪問により、授業等の様子を知ることができ、又、懇談会においては、教職員と教育委員が意見交換をし、各々が抱える多くの課題とその解消への取り組みを共有することができた。 教員が園児、児童、生徒を思う気持ちや、教育的な指導の状況、特別なケアの必要な子供たちへの対応等、現場の苦労や、その姿勢を理解することができ、みのりある会合であった。	それぞれの園や学校での意見交換や、グループ懇談は、少し時間の不足を感じるが、訪問では、教職員と教育委員が町の教育を支える立場として信頼関係を大切にしてお互いが課題を共有できる貴重な機会となっている。 現場での継続する課題については、常に共有できるように努め、一つ一つ確実な解決に向け具体的な方向性を示したい。
②学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	それぞれの視察で得た情報は委員会での意思決定の大きな要となっている。各園、各学校の現場の意見、そして、視察で感じたことを教育行政に生かし、今後共、現場の「生の声」を大切に、明るい町づくりのために努力していきたい。 また、新たに導入される教科や教員の多忙化への対応、施設や人員の要望等に対しては、研修や支援のあり方を検討し、教育環境の整備に努めている。	訪問に際しての要望事項については、予算を要する問題もあり、何らかのフィードバックが出来るように十分な対応を考えていきたい。予算を要するものでも現場での必要性を議論し十分な対応に心がけていきたい。 また、中学校給食は大きな動きがあったが、喫緊の課題でありながら対応に時間を要している。丁寧さとスピード感をもって対応したい。
総合評価	A	現場が抱える喫緊な課題についての共通認識は、身近な問題として得ることは出来たが、教職員の意見としても出来るだけ配慮していきたい。 訪問活動では学校全体や授業をする教室内の空気から現場が課題を抱えているかを察することができる。また、教職員と直接懇談した内容は諸課題の改善に向けた議論に繋がっている。 現場訪問を通して、施設の現状、児童生徒の生活の様子から、園・学校の雰囲気を感じられ、問題の解決に有効に活用していきたい。 現場の課題は現場の教職員が一番把握している。訪問活動を通して、教職員の抱える苦労や問題なども少しでも解決に近づけていけるよう十分配慮していきたい。	

(5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
<p>【目的】 学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。</p> <p>①教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか</p>	A	<p>それぞれの行事内容に応じて、交流や意見交換ができ、有意義であった。子供たちの成長を共有する上で、十分な交流が深まったといえる。</p> <p>行事では教室を離れ、子ども達の活躍と成長を話題にして保護者や地域住民との意見交換の機会となった。</p> <p>多様な行事に参加することによって、園児・生徒・保護者と教師との信頼関係が理解できた。</p>	<p>教育委員が身近な存在として、児童・生徒・傍聴者・地域住民と交流できるよう、積極的に参加し、子供たちの成長を見守りながら、今後も努力していきたい。</p> <p>園から学校への成長段階を通した教育の一貫した流れを理解する機会を増やしていきたい。</p>
<p>②各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか</p>	A	<p>それぞれの園や学校の教育目標に則り、特色ある行事に取り組みながら、地域の方々との関わりを通し、児童、生徒の成長を支えていることがよく理解できた。</p> <p>学校や園の取り組みのみならず、地域住民の見守りと協力によって子ども達は安心して成長していることを深く感じる事ができた。</p>	<p>大磯町の地域性、環境を生かした独自の取り組みを深めていくなど、様々な活動への取り組みが日々努力のたまものとなって「大磯町」の大きな力となる日が近未来にきそうな気がする。</p> <p>各園、各学校、地域が皆で子どもを育てる環境について、多くの課題に対応していきたい。特に子ども達の防犯防災の課題は地域との連携が必要となるため、訪問や交流を通して意見収集を心掛けたい。</p>
総合評価	A	<p>この町の特性として、地域住民が一体となって子育てを中心に「町づくり」の柱となって努力している。</p> <p>幅広い年齢層で構成されて、まとまりのある町の特性は全国に発信してもよいものである。</p> <p>学校や園の取り組みを話題にしなが保護者や地域の方々との交流の機会を得て、情報の収集や発信を行うことができた。</p> <p>ファミリー層を中心に流入人口が増加する中、児童から生涯学習迄、一貫した流れの中で、身近な行事の取り組みに努力する。</p> <p>大磯町ならではの地域性を生かし、町全体で子供たちの成長を支え続けていけるよう、その環境作りの為、気軽に、そして有意義に意見交換できるよう、行事等に積極的に参加していきたい。</p>	

4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】（敬称略、項目ごとの記述記載順：欄中○印）

氏名	所属等	備考
竹内 清	元教育委員	
武沢 護	早稲田大学大学院教職研究科客員教授	

【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ① 内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか**（内部評価の妥当性）**
- ② 内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針**（指導・助言）**

なお、各項目の記述については、外部評価者ごとに（○印）、順に記載しました。

（1）教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議が法令に則り開催され、定例会は毎月、臨時会についても2回開催され、真摯な議論がなされたことに敬意を表する。</p> <p>①については、広報誌やホームページで周知する取り組みを行っており、傍聴者もいるようなので評価「A」は妥当である。</p> <p>②については、中学校給食問題が生徒・保護者をはじめ、町民、世間の大きな関心事になり、関係者は言うに及ばず各方面やマスコミへの対応等で大変なご苦勞があったと推察する。それ以外にも、教科書採択やいじめなど児童・生徒指導上の問題・課題がある中、意見を出し合い、慎重に審議がなされ、適正な意思決定機関となっていることから評価「A」は妥当である。</p> <p>③の今日的な課題への対応であるが、いじめ問題と中学校給食が主なものとして取り上げられている。いじめ問題については対策・調査委員会を設け、積極的に取り組んでいることが推認できる。いじめ問題には表面に出て見えるものもあるがSNSなど隠れて表面に出にくい面もあり、その対応に当たっては容易ではない。小学校の道徳の教科書採択にあたり、「子どもたちの心を育てる」観点から、いじめ問題への対応策の一つとして考慮したことは評価できる。中学校給食の問題は10月の発覚以降、混乱した状況への対応などに多く</p>	<p>○教育委員会制度が大きく変わったが、数年たって次第に定着しつつある。</p> <p>議事録公開は、会議の内容把握と教育や行政の継続性を考えると欠かせないものであり、作成に時間と労力はかかるが、今後とも継続して欲しい。</p> <p>その会議録をみると、年度の後半は中学校給食の問題が発生し、委員それぞれの立場から真摯且つ白熱した議論が展開され、その対応に腐心した様子がうかがわれる。</p> <p>会議予定や議案の住民への周知であるが、広報、ホームページなどの現行の周知方法に一工夫加え変化を持たせるなど、随時その改善を心がけるとともに、時代や住民の関心のあるツールを日頃から意識して探っていくことが大切であろう。</p> <p>地域住民に開かれ、身近なものにするための一つとして本庁舎以外で開催されているが、その場所で開催される必然性、関連性のある議題などがそこで審議できれば住民にはさらに身近に感じられるのではないかと。</p> <p>中学校給食については、各方面の意見を聞きながら懇話会等で検討中とのことであるが、早急に方向性を定め、迅速に情報提供することが求められる。</p>

のご苦労があったことは察するに余りある。中学校給食の問題はまだ道半ばといったことから評価「B」ともいえるが、今後、基本方針の確立と方向性を示す、との道筋を立てたのであるから評価「A」とも考えられ、評価の分かれるところである。

④開催場所を本庁舎以外で開催する取り組みを続けるなど、住民にとって身近なものにするための工夫がなされているため、評価「A」は妥当である。

⑤総合教育会議との関係性が3年目となり、次第に明確になりつつある。特に教育現場での課題を直に理事者側と共有できることは、予算措置などにおいて即効性を有し、教育環境の改善につながっているということ、「学校づくり」をテーマとして課題を共有し、研究するなど協調姿勢がみられ望ましい方向に進展していることから評価「A」は妥当である。

総合評価は、教育委員会が法令に基づき適宜適切に実施されており、事前勉強などを経て論議の深まりを求めるなどさまざまな工夫が見られる。総合教育会議とともに開かれたものにするための努力が見られるため評価「A」は妥当である。

○教育委員会が法令に則り、定例会（12回）及び臨時会（2回）が適切に運営されていることは教育行政にとっては重要なことである。

項目①については、会議の開催、議事録の公開など広報誌やホームページで適切に行われており、評価「A」は妥当であるが、引き続き地域住民への周知に努力して欲しい。

項目②については、教科用図書採択を始め、いじめ問題、中学校給食問題など今日的または喫緊の案件に関しても丁寧な段階を踏んで議論されており評価「A」となっている。ただ、中学校給食問題は地域・保護者の関心は高く、教育委員会の指導性が問われる課題である。

項目③における「今日的な課題」は教育委員会にとって非常に重要なものであり、学校関係者だけでなく地域住民にとっても大きな関心事であ

今日的な教育課題や日々の課題等への対応には、総合教育会議とともに地域に開かれたもの、身近なものとするための不断の努力を重ねていかれることを期待する。

○今日の多様化・複雑化する教育課題に対して教育委員会が、教育行政との連携、地域住民への対応など様々な課題を抱えている。その中で平成29年度もその取り組む姿勢並びにその実行は適切あり、その成果も認められる。

とりわけ項目④に関して、教育委員会が地域に開かれたものになるために、より一層の努力が必要となるであろう。中学校給食問題などは日頃からの地域住民・保護者との問題意識の共有が重要であり、そのために、会議開催などは従来からの取り組みだけでなく、地域住民の意見が吸い上げやすいような新たな仕組みの工夫が必要であろう。

<p>る。平成 29 年度は、いじめ問題に係る道徳教科用図書の問題さらに中学校給食問題など山積したようである。この項目の評価は「B」であるが、引き続きの努力を期待したい。</p> <p>項目④については、教育委員会が地域住民にとっていかに身近なものにするかが重要である。会議の傍聴者数が少ないが開催に関する努力は認められる。評価「A」は妥当である。</p> <p>項目⑤の「総合教育会議」の運営も3年目を迎え順調に運営されている様子がうかがえる。より一層行政との連携を期待したい。評価「A」は妥当である。</p> <p>最後に総合評価に関して、平成 29 年度のように中学校給食問題やいじめ問題など多様化・複雑化する教育課題に対して、教育委員会の役割はますます重要になっている。このような状況の中で、教育委員会、教育行政の運営、地域住民への対応などの取り組む姿勢並びにその実行は適切であり、その成果も認めて評価「A」は妥当であるが、更なる努力を期待したい。</p>	
--	--

(2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会を円滑且つ充実したものにするために、事務連絡調整会議の果たす役割は極めて大きい。委員相互の共通理解の深化が図られるだけでなく、場合によっては研鑽の場ともなりうる重要な会議である。</p> <p>①については、情報提供や資料などの提供が以前より迅速に行われるようになったことに加え、十分な議論が保障され、円滑な活動が可能になるなど工夫・改善の跡が見られるため、評価「A」は妥当である。</p> <p>②いじめ問題を考える視点を念頭において、道徳の教科用図書の採択に際し、各教科書の内容を精査することや予算についての勉強会を行うなど課題や必要な情報を得るための意欲的な活動がみられるため、評価「A」は妥当である。</p> <p>③総合教育会議も含め、適切な資料提供や丁寧な事前説明を基に、議案・テーマについて認識を</p>	<p>○教育委員会や総合教育会議を円滑に進めるためにはこの会議は必要不可欠である。さらに日々起こる今日的な課題について、事務局が迅速に適切な情報を提供し、委員が正確且つスピーディに把握し対応策について胸襟を開いて協議できる場である。年間 12 回開催されたが、事務局の事前準備や資料提供の改善がみとれ、会議の中身の充実に寄与したものと考える。</p> <p>児童・生徒指導上の課題については、年度がまたがるなど長期に及ぶ場合があり、困難が伴うが適切な事務引継ぎなど継続性をもって取り組むことが肝要である。この会議は、教育委員会を支える会議であるという認識が十分なされているようであり、今後更なる教育委員会会議の充実につながるものと期待される。</p>

<p>深められたことが議論の深化に結びつき、会議の質の向上につながったことが見て取れるため評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価については、上記の項目評価から判断すれば評価「A」は妥当である。事務局の会議への真摯な取り組み姿勢を基に、多岐にわたる情報を適切に処理することで教育委員会議の活性化につなげたいという意欲を評価したい。</p> <p>○事務連絡調整会議は、教育委員会議の円滑な運営のために不可欠になってきており、十分に機能していることが確認できる。</p> <p>項目①に関しては、町内での様々な教育上の問題などの処理に対し、12回の開催は時宜にかなったものであり、評価「A」は妥当なものである。</p> <p>項目②については、平成29年度からの「総合教育会議の点検評価」「基本方針の策定」などに加え、小学校道徳の教科用図書に関する勉強会など意欲的な活動ぶりが確認できる点などから、評価「A」は妥当と考える。</p> <p>項目③については、教育委員会議が円滑に運営されることを目的に、教育委員並びに事務局との円滑な連絡調整が実施されており、評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価について、平成29年度の教育行政に関わる様々な課題に取り組む中、教育委員会議の円滑な運営を目的に、情報共有及び共通理解を促進する役割が果たせていると判断できる。評価「A」は十分妥当である。</p>	<p>○教育委員会の円滑な運営のためには不可欠となっている事務連絡調整会議が有効に機能していることが確認できる。さらに教育委員並びに事務局との連絡調整を密にして更なる機能が働くことを期待するものである。</p> <p>また、項目②にもあるように、この連絡調整会議が単なる事務連絡会議にとどまらず、今日の教育課題に関する勉強会・研修会などを積極的に行うことは非常に重要である。今後も続けて頂きたい。</p>
--	--

(3)意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○この会は、保護者や地域住民にとって教育委員と身近に接する絶好の機会であり、様々な課題を共有し施策に反映できることに意義がある。また、児童・生徒を取り巻く環境が複雑化・多岐化しており、地域住民の協力が一層求められている。こうしたことから回数は多くはないがこの会の重要性は高いものとする。</p> <p>①については、大磯中、国府小、中学校とも SNS、</p>	<p>○懇談会では、様々な立場から多様な意見が出るが、「子どもが主役」という理念を常に念頭に置いて議論を深めていく、と述べられていることは常に心に置きたい。しかし、保護者や住民にとって直接、行政に声を届けることのできる数少ない機会であることも事実である。そのためテーマ以外にも様々な意見が出て、まとまりにくくなるのもやむを得ない面もある。</p>

防犯、交通安全、部活動など時宜を得た内容で意見交換がされたが、多くの意見が出て議論の深まりまでには至っていなかったとあり、評価「B」は妥当である。

②については、特に防災などは膨大な経費のかかるものであり施策に生かすまでには至らない場合があることは想像に難くない。しかし、意見として今後の施策の参考にするといった対応はなされているのではないかと推認する。実績として残すという観点まで考慮すれば評価「B」は妥当である。

総合評価については、意見交換会や懇談会を住民との直接対話の貴重な場にとらえ、積極的に意見などを施策に反映させようとする姿勢がうかがえる。皆で子どもたちを育てていこうとの意識が醸成されつつあることは大切にしていきたい。出された多くの課題を大切にしている状況は十分理解できるが、町全体として考えると施策に反映できるものもあれば、予算など考慮すると困難なもの、時間のかかるものもあり、評価「B」はやむを得ないか。

○教育委員会制度の大きな柱の一つである「地域住民の意向の反映」が重要なのは、教育が児童・生徒の保護者だけでなく、地域住民の関心の高い分野であるからである。すなわち、地域住民が気軽に参加できる意見交換会や懇談会の実施は不可欠である。しかし、その一方で、これを時間的にも内容的にも十分に実施することは現実的になかなか難しい問題と推察する。これが今回の評価「B」は致し方ない。

項目①については評価「B」となっているが、国府中学校で実施された地域フォーラム(平成29年8月5日実施)や大磯中学校で実施された「地域ふれあいの集い」(平成29年9月16日実施)は、SNSの問題や部活動の問題など、児童生徒に関する重要な課題を取り上げるなど非常に意義ある意見交換がなされたことは評価に値する。

項目②については、政策を実行するに当たっては大磯町全体の施策や財政的な側面を考慮する

併せて、相互の信頼関係の醸成の場でもあるので、出された意見はその後の意思決定の材料になったという実績も伝えていく必要がある。

○意見交換会や懇談会の開催は、各学校の現状や地域が抱えている様々な課題を地域住民・保護者と共有する機会として非常に重要なものである。

平成29年度の報告にもあるように、防災教育、情報教育さらには部活動の問題は学校だけの問題として捉えるだけでなく、地域及び家庭との連絡を密にすることが不可欠である。

可能であれば、この実施内容を大磯町の広報誌に掲載するなど一般町民へも情報提供できることが望ましい。

こうした取り組みをもとに、大磯町が他の自治体に先駆けて教育行政の新しい方向性を提示できるよう期待している。

<p>と、教育委員会及び事務局だけで意思決定できるものではなく、評価として「B」でも致し方ないが、各回の実施報告を見る限り、事務局としての努力は十分に認められる内容である。</p> <p>このような地域との意見交換や懇談会の実施は重要であり、多様化・複雑化する教育の課題解決には不可欠である。しかし、一方で限られた時間の中、懇談会等を企画し開催するにはやや限界があるのも事実である。総合評価として、平成29年度の事業の評価「B」は致し方ない。</p>	
---	--

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○学校や園の活動状況を知る上では、訪問が非常に効果的であることはいままでの間。子どもたちの活動を参観したり、教職員との懇談などを通して実態を知り協議の場で課題を共有するために今後とも継続すべき重要な事業である。</p> <p>①について懇談記録から判断すると、多岐にわたるきめ細かく協議できたことがうかがえる。課題だけでなく、教員による子どもへの愛情のこもった指導の実態やケアなどを知ることができ、実り多かったことが推認されるため評価「A」は妥当である。</p> <p>②については、訪問活動で話し合った内容は、教育委員会での意思決定に大きな影響を与えていることがわかり、訪問が有効に機能していることがうかがえる。しかし、教育施策に生かすとなると事務局や教育委員の努力は認めるも、町の財政状況があり要望には応えきれない部分もあるといったことから、評価「B」は致し方ない。</p> <p>総合評価については、お互いに課題を共有することによって信頼関係が築かれつつある。教職員の抱える苦労や問題を共有し、積極的に解決していこうとする決意がみられることから、評価「A」は妥当である。</p> <p>○教育委員にとって、各学校・園への訪問は現実的に起こっている様々な問題を認識できる重要な機会であろう。幼稚園・保育園、小学校、中学</p>	<p>○各学校・園の訪問は、学校にとっても教育委員にとっても、それぞれの指導方針、学校・園の実態や子どもの活動状況、教職員の悩みや要望等正確に把握する上では欠くことのできない事業である。</p> <p>訪問活動は、永年継続し、真摯な協議ができていたため、信頼関係の構築につながりつつあるようだ。記録をみると、小学校では新教育課程の改訂に伴う、教科道徳と外国語への対応、中学校では給食や不登校といった課題が、また、教員の問題としては働き方改革、負担軽減、それに伴う部活動の課題などが出されたが、これらは全国的な課題でもあり教育委員として引き続ききめ細かな対応をお願いしたい。</p> <p>○教育委員による学校訪問は、学校現場や教育委員双方にとって極めて重要なものである。教育委員会が正しい意思決定するためにも各学校の現状をきめ細かく聴き取ることは教育委員自ら学校現場の問題点を認識する上で不可欠である。今後とも積極的に取り組んで頂きたい。</p> <p>また、各学校・園への訪問報告は非常に興味深いものである。とりわけ目を引いた内容は、教職員の多忙感の問題である。我が国の働き方改革の中で学校現場は後れを取りがちである。とりわけ、新学習指導要領（外国語の必修、道</p>

<p>校と児童・生徒の発達段階による問題や課題の違いはあるが、やはり現場に行っこそ理解が深まり問題が共有できる。</p> <p>項目①については、町内の幼・保、小・中学校への訪問からその発達段階による様々な課題を学校現場と共有できていることがうかがえる。それぞれ固有の問題、共通な問題と多岐に渡っているが有意義な訪問であったことから評価「A」は妥当である。</p> <p>項目②については、教育行政への反映はなかなか難しい面もある。各学校・園からの意見聴取をもとに、教育行政への反映には限界はあり、特に平成 29 年度は「中学校給食問題」など大きな問題を抱えたため、評価「B」は致し方ない。</p> <p>しかし、今後とも細かい要望も含め、教育行政への反映に心がけて頂きたい。財政上の問題もあり要望内容は容易に実現できるものではないが、常に改善・努力をお願いしたい。</p> <p>総合評価に関しては、各教育委員による精力的な学校訪問が実施されていることが分かる報告内容である。学校現場から吸い上げられた課題が直ちに解決に至ることはなかなか難しいと思われるが、地道な取り組みが行われており、評価「A」は妥当である。</p>	<p>徳、プログラミング教育等)に向けた小学校教員、さらに中学校における部活指導における問題(休日勤務等)など、教職員の勤務状態やメンタルヘルス問題についても引き続き問題意識を持ち続けて頂きたい。また、夏季における学校施設上の環境整備も大きな課題である。来年度に向けて早急な対応が必要であろう。</p>
---	---

(5) 訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○学校や園の行事に参加し、子どもたちの活動の様子を観察することは、授業参観などとは違った子どもたちの一面がみられるため、たいへん貴重な機会である。子どもたちはこうした行事に至るまでの取り組みと当日の活動を通して、通常の授業とは違った貴重な体験をすることにより成長していくものである。</p> <p>社会教育分野においては、各種企画・イベントなどへの参加を通して関係者や町民とふれあう貴重な機会である。</p> <p>①については、子どもたちの活動や成長した姿を共通の話題とし、地域や教育関係者と意義のある交流ができたことから、評価「A」は妥当であ</p>	<p>○学校や園の行事については、休日開催が多い。また、生涯学習についても、各種イベントや企画など地域の文化を十分に考慮し頻繁に開催されているため、委員として参加することの重要性は認識しつつも時間の制約があり思うに任せないことは理解できる。平成 29 年度も触れたが、委員や事務局が過重負担にならないような手立てはないものか。</p> <p>幅広い年齢層で構成され、コンパクトでまとまりのある町の特性を特色ある教育とともに全国に向けて発信できることを期待する。</p> <p>○教育委員各位が限られた時間において町内</p>

<p>る。</p> <p>②については、各行事は学校や園の教育目標の実践の場であり、地域住民の関わりもあわせて知ることができたということであり、評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価は、町の特性である子ども、子育てを中心に生涯学習までの流れをよく理解し、教育委員としても教育の立場から町全体で子どもたちを支えていこうとする姿勢が見てとられ、評価「A」は妥当である。</p> <p>○学校や園にとって、年間の様々な行事は児童・生徒の発達上、非常に重要な活動であり、授業や日常の活動だけからは見えにくい人格的成長を見届けることができるものである。こうした中、教育委員各位の各学校・園への訪問は児童・生徒の成長を目の当たりにするとともに教職員との交流の機会として非常に有意義であろう。</p> <p>項目①については、報告書にもあるとおり、教職員のみならず保護者、地域住民との会話などから貴重な意見が得られた様子がよく理解できる。今後の教育行政を執行する中で重要になったことは想像に難くない。評価「A」は妥当である。</p> <p>また、項目②においても、その行事に参加することにより児童生徒の活躍ぶりを参観するだけでなく教職員と触れ合うことで、学校全体の取り組みや子どもたちの成長の理解が深まることは明らかであり、こちらも評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価についても、評価「A」は妥当である。教育委員各位が限られた時間の中で、精力的に各行事に参加されたことには敬意を表したい。</p>	<p>の学校・園へ精力的に訪問され、様々な行事などに参加されたことは非常に有意義なことであり、また敬意を表するところである。</p> <p>毎年指摘している事柄だが、委員各位や事務局職員の多忙化も一方で心配である。働き方改革の流れの中で適切且つ効率的な運用をお願いしたい。</p> <p>ともかく大磯町という全国に誇れる自然環境・教育環境をもつ地域として、様々な行事や地域住民との協力を通して教育の更なる充実をめざしていただくことを願っている。</p>
--	--

II 「平成29年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

《基本方針》

幼稚園においては、「遊びを中心にさまざまな経験を通じて、家庭ではぐくまれてきた「生きる力」の基礎を確立する」ことを基本方針とします。また、小中学校においては、学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえるとともに、教育大綱の基本方針である、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育と、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりの実現を目指します。

《目標》

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々の協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 幼稚園と保育所の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
3. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりや大磯らしい特色ある学校づくりに努めるとともに、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育を目指します。
4. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、「大磯らしい」美しい自然と由緒ある歴史・文化を大切にす教育を目指して教育活動の展開を図ります。
5. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町村との広域的人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①職員の研究・研修
- ②いじめ問題への対応（「大磯町いじめ防止対策基本方針」に基づく取組み）
- ③読書活動の推進（学校図書館の環境整備）
- ④中学校給食の推進（義務教育9年間の学校給食を通じた食育の推進）
- ⑤学校施設の整備（大磯中学校3号館大規模改修基本設計及び大磯小学校第2音楽室空調設備改修工事設計）
- ⑥預かり保育の拡充
- ⑦町立幼稚園の統廃合

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 職員の研究・研修 ・昨年度までの4年間、神奈川県教育委員会の「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し実践研究に取り組んだ成果を途	C	○教育研究所の研究・研修事業と連携し、町立学校全体の共通テーマを設定（日常授業の改善・充実）することで、各校が取り組

<p>切れさせることなく、さらに進めていくことを目指し、「大磯学びづくり推進研究事業」を拡充し、2小学校2中学校を研究推進校として実践研究に取り組んだ。各校の校内研究テーマを生かしながら、実践研究や研修を実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一中学校区内を中心として町立園・学校を相互に訪問することにより、取組の共有や学習指導の改善を図ることを目的として、「日常授業の改善・充実のための幼・小・中相互訪問事業」を実施し、他校種の具体的な取組を共有し、個々の実践を改善する機会を設けることができた。 ・ファーストキャリアステージ教員研修会を開催することで、経験の浅い教員に対して、年間を通して研修を実施することができた。 ・「特別の教科 道徳」が平成29年度以降順次教科化されることを踏まえ、教育課題研修会において、講師を招き、全教職員に対して道徳に関する研修会を実施することができた。 		<p>んでいる研究・研修の成果を、町全体の枠組みの中で整理し、全ての教員が日々の授業に生かしていくという姿勢が定着した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校の校内研究会へ相互に参加する意識が高まり、大磯町の強みである、公立幼・小・中の縦のつながりを意識した連携が一層強まった。 ○相互訪問事業の中で、お互いに普段行っている授業を見合う機会がもてたことで、研究した成果を普段の授業に生かしていくという意識が教員の中でさらに高まった。 ○年間を通じて計画的に授業研究や研修会を実施していく校内体制が整えられ、学校及び町として同じ方向性をもって研究を進めていく意識と体制が定着した。 □日々の忙しさの中で、研究及び研修が形だけのものにならないように、効率良く工夫して研究を行う方法等を共有するとともに、取り組みや成果を発信していく体制が必要である。 □経験の浅い教員向けに、授業研究だけでなく、教師としての基礎・基本の部分の養成する研修等の機会を設定していくことが今しばらくは必要である。
<p>② いじめ問題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年3月に策定した「町いじめ防止基本方針」に基づき、各校のいじめ防止基本方針の見直しを図った。 ・「町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の関係機関の会議（区長会、民生委員児童委員協議会、学校警察連絡会議、防犯安全対策推進委員会等）に出席し、いじめ防止に係る取組を周知することができた。 ・「大磯町いじめ問題対策・調査委員会」を年2回開催し、町及び学校のいじめ防止に関する取組を協議し、取組みの改善に結びつけることができた。 ・各校の児童・生徒指導を担当する教員に対して「いじめ防止対策推進法」に基づき、いじめ定義の理解及び認知について周知するとともに 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止のための周知等の取組を行った。 ○各校でいじめを学校全体の問題として捉え、組織対応する意識がより明確になった。 ○「大磯町いじめ問題対策・調査委員会」で協議した内容を各校へ還元することで、いじめ防止に関する取組みがより充実した。 ○町で作成した「いじめ認知集計表」等の活用により、法に基づくいじめの認知について、各校が積極的に取り組むことができた。 □いじめの認知に係る各教員の認識の違い

<p>に、担当教員を通じて全教職員へ周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県警察本部と締結した学校警察連携制度を運用し、いじめに関する事案等について大磯警察署と連携する体制を整えた。 ・ 学校長等の経営者会議で各校のいじめ対応状況を報告しあい、町立学校全体としてのいじめ防止対策に結びつけることができた。 		<p>をなくし、どの教員も共通していじめ認知ができるように、周知を続けていく必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/>法に基づくいじめの定義等について、保護者や地域に対して今まで以上に発信し、理解を求めていく必要がある。</p>
<p>③ 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「第三次大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、各学校では特色ある取り組みを進めた。 ・ 学校図書館司書の配置が定着し、学校ごとに一貫した視点で学校図書館環境の整備、蔵書管理、レファレンス機能の充実が図られている。 ・ 学校図書館司書と司書教諭等との連携により、蔵書の充実が図られた結果、学校図書館の利用機会は増えてきている。 	<p>B</p>	<p><input type="checkbox"/>読書活動では、学年スペースに配架する「移動図書館」や「読書週間」に関連した取り組み、また一部の学校では「朝読書」の設定等、学校ごとのに児童生徒の貸出数の伸びが見られる。</p> <p><input type="checkbox"/>教員からのニーズに応じたレファレンスの中で、学校間での相互貸出や町図書館の団体貸出が進んでいる。一部の学校ではこれまでの実績による「貸出パック」として教員に紹介している事例もある。</p> <p><input type="checkbox"/>活動の幅が広がる中学生は、小学生と比べて貸出数は少ない傾向がある。</p> <p><input type="checkbox"/>授業利用促進のためには、学校図書館司書と教員との年間の授業計画等、情報共有が一層進むことが求められる。</p>
<p>④ 中学校給食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校給食を児童・生徒の心身の健全な発達・食に関する正しい理解と適切な判断力の育成、望ましい食習慣を学ぶ機会として位置付け、義務教育9年間の学校給食を通じた食育の推進を図る。 	<p>E</p>	<p><input type="checkbox"/>平成29年10月にデリバリー方式の中学校給食は中止。</p> <p><input type="checkbox"/>中学校給食は休止。</p> <p><input type="checkbox"/>大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を引き続き実践。</p>
<p>⑤ 学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大磯中学校3号館大規模改修基本設計を実施した。 ・ 大磯小学校音楽室等空調設備改修基本・実施設計を実施した。 	<p>A</p>	<p><input type="checkbox"/>大磯中学校3号館は築30年以上が経過しており、大規模改修基本設計に必要な基本設計を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/>大磯小学校音楽室等空調設備が老朽化したため改修について基本及び実施設計を</p>

		<p>行った。</p> <p>□児童生徒に快適で安全な学習環境を提供するため、施設の改修事業に取り組むことができたが、各施設とも老朽化が進んでおり、総合計画に位置付けるなど優先順位を付け、改修を行う必要がある。</p>
<p>⑥ 預かり保育の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 町立幼稚園における預かり保育は、平成19年度に始めた際は週1日のみ14時から16時の間で実施していた。その後、平成26年度から週2日に拡充し、平成27・28年度には週3日、14時から16時30分の間で実施した。また、平成28年度には、夏季休業のうちの3日間において、希望者に対し夏季保育を実施した。 平成29年度には、週3日の預かり保育時間を14時から17時までとし、前年度よりも30分預かり時間を拡充した。また、夏季休業中の3日間、希望者に対し夏季保育を実施した。 	<p>A</p>	<p>○預かり保育利用園児数:3園延べ3,055人 大磯幼稚園:延べ2,202人(実施日数93日) 国府幼稚園:延べ443人(実施日数98日) たかとり幼稚園:延べ410人(実施日数100日)</p> <p>○夏季保育利用園児数:3園延べ560人 大磯幼稚園:延べ264人 国府幼稚園:延べ112人 たかとり幼稚園:延べ184人</p> <p>□週5日間、夏季等長期休暇における預かり保育のニーズ把握と対応策</p>
<p>⑦ 町立幼稚園の統廃合</p> <ul style="list-style-type: none"> 国府幼稚園をたかとり幼稚園に統廃合し、サンキッズ国府への円滑な移行を図るため、サンキッズ国府の設置運営法人である社会福祉法人恵伸会により、国府幼稚園在園児保護者を対象、5月・7月・9月に説明会が実施された。 平成29年10月、サンキッズ国府の1号利用申込者の受付を実施。選考にあたっては、国府幼稚園在園児を優先として決定された。 平成29年11月、社会福祉法人恵伸会と「大磯町公私連携幼保連携型認定こども園設置及び運営に関する協定書」を締結し、同法人を公私連携法人に指定。町立幼稚園における教育・保育の質が同園でも確保されることを求めた。 平成30年1月から3月、国府幼稚園教諭とサンキッズ国府の保育従事予定者が合同で国府幼稚園の年少・年中児の保育を実施し、サンキッズ国府への円滑な進級に努めた。 サンキッズ国府の設置認可手続き、国府幼稚園の廃止手続きを行った。 	<p>A</p>	<p>○国府幼稚園北側園舎の解体工事、仮設職員室新設工事、サンキッズ国府新設工事を実施しながら、安全に国府幼稚園の運営を実施することができた。</p> <p>□平成30年度、国府幼稚園南側園舎を解体する第2期解体工事を安全に実施し、同工事への補助金執行を実施する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・国府幼稚園北側園舎を解体する第1期解体工事、仮設職員室設置工事、サンキッズ国府新設工事に対する補助金の執行を行った。 		
---	--	--

(3) 教育委員による評価

① 職員の研究・研修

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「大磯学びづくり推進研究事業」の拡充のため、小学校2校、中学校2校を研究推進校として実践研究に取り組み、一定の成果を得られた。 ・町立園から中学校までの流れの中で、より充実した保育や授業を展開するために、幼・小・中の相互訪問により、課題を見つけ、また、他園、他校の良いところを学ぶなど、研究や研修に取り組む体制が確立してきている。 ・「ファーストキャリアステージ教員研修」や「特別の教科道徳への課題研修」の開催など、教育に関する課題に対応した研修を継続して行い、教職員の意識の向上、方向性の共有化が図られている。 <p>以上のことからC評価が妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い教員向けに授業研究だけでなく、教師としての基礎、基本の部分を要請する研修などの機会をもう少し続けていくことが必要である。 ・職員が自信をもって児童生徒を指導できるように課題を精査しながら研究・研修の充実を図りたい。 ・研究・研修が引き続き年間を通して、より現場で生かせる実践的なものとなっていくことを期待する。 ・「特別の教科道徳」が教科化されるが、教科書だけに捉われず、広い視野を持ち、人間力を高められる授業が必要である。その為には、授業研究以外にも効果をもたらす得策も必要と考える。

② いじめ問題への対応

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の関係機関の会議等を年2回開催し、町及び学校のいじめ防止に関する取り組みを協議し、その改善に結びつける努力が見られた。 ・「町いじめ防止基本方針」の見直しを図り、警察署など関係機関との連携や情報の共有により、多様化するいじめ問題に対して組織的な対応に努めている。 ・「いじめ防止対策推進法」の認知、理解について、全教職員へ周知を図ったことは意味がある。 <p>以上のことからC評価が妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知に係る各教員の認識の違いをなくし、どの教員も共通して、いじめ認知ができるように周知を続けていく必要がある。 ・町内外のいじめ問題に関する情報を捉えて、対応方法等の柔軟な見直しも必要である。また、いじめの定義等の内容を保護者や地域の方々に周知しながら、いじめ

	<p>の早期発見に繋げるとともに、被害者に寄り添いながら解消する対応を心掛けたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知は非常に難しいが、いじめた側、いじめを受けた側、両方のヒアリングがどこまで事態の把握に繋げることができるか、又心のケアを含め対応に課題が残る。
--	--

③ 読書活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校への訪問の際、学校図書館の利用や環境の整備、蔵書の管理など、学校図書館司書と司書教諭等との連携により、児童・生徒に対する工夫が十分見受けられ、利用機会は増えていることが実感できた。 ・各校の図書館司書の配置が定着し、学校図書館の環境は、これまで以上に整い、各校それぞれに特色のある取り組みがなされ、児童生徒の読書への興味を深めている。 <p>以上のことからB評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・時代が変わり、児童・生徒の図書に関する考え方は様々であるが、教員や学校図書館司書の今後、益々の協力が必要になってくると感じる。 ・教員と司書が連携し、児童・生徒にとって魅力的で充実した読書環境を整え、児童や生徒の図書の貸出数の増加とともに、活字離れの抑制に繋がることを期待する。 ・他の事業との連携で、お話し会等の活用により、更なる読書への関心に繋がられると考える。

④ 中学校給食の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食は、味付けの工夫や汁物の追加等、諸問題の改善に向けての努力は窺え、その改善への兆しが見えてきたところであったが、昨年10月、デリバリー方式の給食は中止せざるを得ない状況となった。その後、中学校給食は休止している状況であるが、児童・生徒の心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力の育成などは今後も十分必要なことである。 ・食育計画に基づき、多くの理解を得られる長期的な展望に立ったプランが必要である。 <p>以上のことからE評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」等を基に食に関する指導は今後も引き続き必要である。 ・中学校給食のデリバリー給食の中止後は、家庭弁当の昼食となったが、生徒たちが好きなおかずばかりで栄養的に偏っているなどを話していたとの報告を受けた。食事に関して興味を持てるのは給食による食育の成果の一つと感じる。課題を整理し大磯町の食育の形を検討する必要がある。 ・中学校給食については、少しでも早く方向性を示すとともに、その進捗状況などの情報を正確に発信していき十分に理解を得ることが必要と考える。

⑤ 学校施設の整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校の改修基本計画は計画通り実施されている。 ・計画に沿って大磯小学校（音楽室等の空調設備）及び大磯中学校（3号館大規模改修基本設計）の施設の改修を進めたことは評価できる。 <p>以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校のそれぞれの施設とも老朽化が進んでおり、今後は、更に優先順位を付け、早急に対応する必要がある。 ・地震や異常気象が懸念される中、児童生徒の安全な環境の確保のために、老朽化への対応をはじめとし学校施設の改修を進めたい。

⑥ 預かり保育の拡充

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は、年ごとに変更してきており、きめ細かく計画通り進んでいる。預かり時間の拡充するなど、町民のニーズに対する努力も見られる。 <p>以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・「預かり保育のニーズの把握」は十分であるが、更に大磯町としての柱となるよう、他の町から大磯へと続くことを望みたい。（若い家族の子育ての町として） ・より細やかにニーズを把握し、その中で課題は出てくると思うが、町として可能な限りのサポート体制を築き、保育の質を確保しながら対応を進めたい。

⑦ 町立幼稚園の統廃合

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・国府幼稚園をたかとり幼稚園に統廃合し、サンキッズ国府への円滑な移行は十分図られた。 ・在園生の進級への不安や工事中の安全確保の課題を解消しながら統廃合の手続きを行っていることは評価できる。 <p>以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合が町の幼児教育の質や量の充実に繋がるよう、今後も公私の連携を深めたい。 ・引き続き、運営等がスムーズに行くことを期待する。

2 生涯学習

《基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民主体の地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境を整備し、更に学びを地域に活かす生涯学習社会の実現を目指します。

《目標》

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らの可能性を広げることができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、人と人とのつながりが広がるよう、町民の文化芸術活動を支援します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存・周知することにより、町民が郷土の素晴らしさを再認識し、新たな発見ができる生涯学習のまちづくりを進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理
- ②青少年健全育成活動の推進
- ③生涯学習の推進と学習団体への支援
- ④人権啓発活動の推進
- ⑤文化財資料等の保存・活用

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理 ・生涯学習に関する町民アンケートを実施した。 ・H29 年度生涯学習に関する事業 進行管理表に基づく実績・数値等の確認を行った。	B	<input type="radio"/> 生涯学習推進計画の中間評価のためのアンケート調査を実施した。 <input type="checkbox"/> 集計結果を現推進計画の評価及び次期計画の策定に活かす。
② 青少年健全育成活動の推進 ・青少年指導員連絡協議会への助言・諸活動の計画・運営を行った。（総会 1 回・定例会 11 回、研修会・社会環境実態調査・自主事業 2 回、町事業への協力） ・青少年健全育成連絡会を開催した。（2 回） ・青少年指導者研修会を開催した。（1 回）	B	<input type="radio"/> 青少年指導員連絡協議会の自主事業として宿泊を伴うキャンプを開催した。 <input type="radio"/> 学校・青少年関係団体・行政関係課の構成会議により、連絡・調整が図られた。 <input type="checkbox"/> 事業内容・周知方法等について、さらなる検討が必要である。

<p>③ 生涯学習の推進と学習団体への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習意欲に対応する講座を開設した。(33講座、参加延べ人数 650人) ・町立学校 PTA 連絡協議会へ交付金交付。 ・小・中学校 PTA 家庭教育学級交付金交付 (4小中学校) ・子ども会交流事業補助金交付 (15団体) ・ガールスカウト活動事業交付金交付 (1団体) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に応じた学習機会と豊かな心・生きがいを支える学習機会の提供に努めた。 ○各団体の自主的な学習活動への支援に努めた。 □各種講座等の広報、周知方法については、町広報、ホームページはもとより、タウン誌等への掲載をさらに推進する必要がある。
<p>④ 人権啓発活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権担当の社会教育指導員を配置した。(1人) ・人権研修、大会へ参加した。(29回) ・「LGBTを理解する～同性婚・新しい家族のかたち～」を演題に、人権教育講演会を開催した。(H29.10.12) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権をめぐる課題が多岐にわたるなか、積極的に研修会、大会に参加することで、情報収集をし、関係機関等への提供を行い啓発に努めた。 □町民の人権意識の向上を図るため、啓発活動のさらなる工夫が必要である。
<p>⑤ 文化財資料等の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助を受け H28～H31 年の継続事業「相模国府祭」調査事業の 2 年目の事業を実施した。 ・国指定重要文化財 木造薬師如来坐像の光背修理に伴う助成を王福寺に対して行った。 ・町指定民俗資料「大磯御船祭」山車等修理に伴い、保存会に交付金を交付した。 ・町指定史跡である鳴立澤の整備工事に対して関係課と調整し、現状変更の手続きを行った。 ・文化財の定期的な巡回調査を実施した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○国府祭の歴史と現状を把握することで、無形の民俗文化財の保護に資した。 ○経年劣化による木造薬師如来坐像の光背を修理することにより、良好な状態で後世に伝えることが出来た。 ○御船祭において、隔年に曳かれる山車の水引き等を新調した。 ○鳴立澤の石階段を修復し、良好な状態に復した。 □無形民俗文化財をはじめ、指定文化財のさらなる周知を図る必要がある。

(3) 教育委員による評価

① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する町民アンケート調査の実施や、それに基づく生涯学習に関する事業などの確認ができ、一定の評価があった。 ・アンケートを実施し計画の進行管理を確実に実施している。 ・地域に根ざした文化・芸術活動が活発化される環境整備が図られている。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の周知方法等について、更なる検討が必要となってくる。 ・計画を評価しながら町民のニーズにあった事業を計画し、進行管理に努めたい。 ・集計結果を受けて、今後の計画に活かして頂きたい。

② 青少年健全育成活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成活動の推進等は、例年通り計画、実施され、特に問題はなかった。 ・青少年の健全育成のために青少年指導委員の活動を支援している。 ・青少年指導員との連携が強化された。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種活動実施の広報の周知などの伝達について、より良い方法がないか検討する必要がある。 ・児童生徒が学校を離れ様々な体験を通して成長できるように、青少年指導員の活動への助言支援を継続したい。

③ 生涯学習の推進と学習団体への支援

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の推進に学習団体への支援は、実際に関係した人々の声を聞いたりすると、対応に問題はなく、今後も続けていきたいという声を聞き、大変喜ばしいことである。 ・多くの講座を開設することで町民に学習機会を提供するとともに、様々な団体の活動を支援している。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講座などの広報は、町広報、ホームページはもとより、タウン誌への掲載など十分努力する必要がある。 ・講座の開講は多くの方々に参加していただけるよう、内容や開催時期を検討したい。 ・子ども会の会員数の減、廃止等、又、役員の引き受け手などの課題がある。何か良い打開策を各団体と考えていく必要を感じる。

④ 人権啓発活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・人権啓発活動の推進に対しては、例年通り、計画通り出来た。 ・研修や大会参加により情報収集に努め、講演会を通じて人権尊重の理念について正しい理解を深めるという事業目的を達成している。 ・学習機会をとらえ、時代の価値観の変化に前向きに取り組んでいる。 ・人権担当に社会教育指導員を配置していることや、人権研修、大会参加の29回は大いに評価できる。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・人権をめぐる活動は多岐にわたるが決定打はない。今後共、研修会、啓発活動に対し、努力と検討を要する。 ・講演会は定着してきているが参加者が限られるため情報発信は十分ではなく、啓発活動を工夫して人権意識の向上を図りたい。 ・町民への意識の向上を図る啓蒙活動が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBT、障害者等への理解、人権への意識はとても重要である。 人権教育は子どもの時から推進されるべきである。それが他人との違いを認め差別、偏見のない世の中をつくると考える。 まずは、大人から、そして子どもにしっかりと人権意識を伝えたい。たゆまぬ啓発活動が続けることを期待する。
--	---

⑤ 文化財資料等の保存・活用

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、文化財における定期的な巡回調査など計画通り、実施出来ている。 ・国府祭について調査を実施する等、文化財の調査・保存を計画的に進めている。 ・積極的な掘り出しへの取り組み、調査、保存に力を入れている。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の対応を検討することや、その状況把握は常に必要である。 ・次世代へ引き継ぐ文化財の保存や天然記念物の保護に対する助成は今後増加が懸念され、計画的な方法を検討したい。 ・資料の保存、活用の為のバックヤード・整理の必要性が認められる。 ・民俗資料、文化財の保存には沢山の人の手と予算が必要であるが、町の宝として後世に良い保存状態で残されることを期待する。

3 図書館

《基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実にに向けた支援に努めます。

《目標》

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. まちづくりなど、地域の課題解決に必要な郷土・地域資料の収集・提供に努め、町民の自主的な学習活動を支援します。
4. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①資料の収集及び整備と利用促進
- ②子ども読書活動の推進
- ③ボランティアとの協働の推進と人材の育成

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果 (○) と課題 (□)
<p>① 資料の収集及び整備と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館所蔵の浮世絵や地図、絵葉書等をデジタル画像化し、ホームページに「デジタルアーカイブ」として公開した。 ・書庫資料を紹介するコーナーを随時更新し、展示・貸し出しを行った。 ・郷土に関する記述がある図書の収集と目録作成を積極的に行った。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「デジタルアーカイブ」掲載件数9件 ○ 3,513 冊の図書、89 点の視聴覚資料を購入した。 ○個人貸出点数は、177,393 点の個人貸出しがあった。 ○29,083 件の予約・リクエスト件数があった。 □個人貸出点数が減少した。予約・リクエスト件数は、変わらないため、利用者ニーズの把握方法を検討する必要がある。

<p>② 子ども読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ステップブック」として、町内公立小学校の新入生に、「読書通帳」と「ステップブックリスト」を配布した。 ・子どもと本を結ぶための行事を開催し、子ども達が本に触れる機会を増やした。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「ステップブック」を275人に配布した。 ○認定子ども園あおばとの年長組の図書館見学を開始した。参加者9人 ○新たなおはなし会として「ぬいぐるみのおとまり会」を開催し、19人の参加があった。 □各年齢層に応じた図書の選定・収集を行うとともに、行事を通じて紹介する機会を増やす必要がある。
<p>③ ボランティアとの協働の推進と人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規ボランティア説明会を開催した。 ・分館おはなしボランティア入門講座を開催した。 ・おはなしボランティア養成講座「ブックトークしてみませんか」を開催した。 ・「折り紙教室」などの図書館行事にボランティアが子ども達へのアドバイザーとして参加した。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアとして、4人の新規加入があり、映画ボランティアと館内案内ボランティアは、久しぶりの増員となった。 ○分館おはなしボランティア入門講座には6人の参加があり、2人がボランティアとして登録した。 ○「夏休み折り紙教室」に4人、「ポップアップカードをつくろう」に2人のボランティアが参加した。 □ボランティアとの連携の強化と人材の育成に引き続き務める必要がある。

(3) 教育委員による評価

① 資料の収集及び整備と利用促進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町民のニーズを把握し、一定の図書、視聴覚資料を購入出来たことは評価できる。 ・蔵書の刷新や書庫資料の紹介を工夫したこと、資料をデジタルアーカイブスとして公開する等、利用促進は評価できる。 ・限られた空間を上手に活用し、利用しやすい環境に努力しています。催事を活用し、利用者の増加に繋がる努力が窺える。 ・郷土に関する図書収集及び目録作成は、今後、大磯町の文化等を知るのに多いに役立つと考える。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も資料の更新を適切に行い、蔵書の構成の整備に努める必要がある。 ・利用者が求めているものに出会えることで利用が拡大することから、リクエスト状況を検討する等、要望の把握に努めたい。 ・広く活動の周知、広報が求められる。 ・視聴覚資料の更なる充実を目指したい。

② 子ども読書活動の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会等行事の開催のほか、今年は新入生に「読書手帳」、「ステップブックリスト」を配布し、実施出来たことは大変よかった。 ・本との出会いや読書の楽しさを伝える中で、対象者やお話し会を工夫する等の取り組みが評価できる。 ・幼少時から本に触れる講座、催し物に取り組んでいる。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子供たちの発達段階に応じた各種行事への参加を始め、工夫すれば成果は大きい。 ・子どもの読書離れが懸念される中で、図書館利用の楽しさが自主的な読書活動に繋がるよう、事業を工夫したい。 ・年齢に応じたおはなし会等の開催を増やしていくなど、幅広い年齢層に応じた利用促進への工夫が必要である。

③ ボランティアとの協働の推進と人材の育成

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、各種計画のもれはなく、講座等は実施できた。 ・講座参加者の中から実際にボランティアとしての登録が増加し、図書館事業の充実に繋がっていることは評価できる。 ・新規加入、養成に努力し成果があった。 ・ボランティアの養成講座等の開催や、ボランティアのアドバイザー活用は評価できる。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの人々との連携の強化と人材の育成が今後も必要となってくる。 ・「おはなし会」を始め、図書館の活動を支える人材としてボランティアの役割は重要である。人材の育成に努め、活動の充実に繋げてほしい。 ・ボランティア説明会など、町民への周知がもっと必要と考える。 ・人材育成に努めると共に、気軽に参加できる雰囲気づくりが必要である。

4 郷土資料館

《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①郷土資料館と旧吉田茂邸の一体運営開始
- ②新たな地域情報の発信
- ③町民と協働による博物館活動を展開

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 郷土資料館と旧吉田茂邸の一体運営開始 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月1日に旧吉田茂邸の一般公開を始めた。 ・ 旧吉田茂邸の一般公開にあわせて郷土資料館において吉田茂の業績や大磯での生活ぶりを紹介する企画展を開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○旧吉田茂邸の観覧者数は、当初の想定を大きく上回る104,227人であった。 ○旧吉田茂邸との相乗効果により、郷土資料館の年間観覧者数も35,826人と大幅に増えた。
② 新たな地域情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧吉田茂邸落成記念企画展「吉田茂ーその生涯と大磯ー」、企画展「ようこそアオバト楽会へー新たに解明されたアオバトのふしぎー」、企画展「大磯別邸 城山荘ー三井高棟が遺したものー」、企画展「ちょっと昔の暮らしと道具」の4本の企画展を開催した。 ・ 郷土資料館建物概要、旧吉田茂邸建物概要、資料館資料17『ワークショップ“海の森クラブ”の活動報告』を刊行した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○多様なニーズに対応できるように、歴史、民俗、自然の3分野の企画展を開催し、好評を得た。 ○郷土資料館と旧吉田茂邸の建物概要、資料館資料17をまとめ、情報発信に努めた。
③ 町民と協働による博物館活動を展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで継続的に行ってきた古文書裏打クラブ、古文書解説クラブ、写真整理クラブ、石仏クラブ、大磯自然観察会、海の森クラブ、海の教室の7講座に加え、新たに「民俗資料整理ボランティア」を立ち上げた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○講座の開催日数は77日、参加人数は延べ525人であった。1年間の講座開催日数は、これまでの活動の中で、最も多かった。 ○石仏クラブの年間の活動内容をミニ企画展で紹介した。

・ミニ企画展「石仏クラブ 平成 29 年度の活動報告」を開催した。		
-----------------------------------	--	--

(3) 教育委員による評価

① 郷土資料館と旧吉田茂邸の一体運営開始

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・町としての郷土資料館としての存在感は非常に大きいものがあり、各種企画展を通して入場者数の増加に努めたことは評価できる。 ・旧吉田茂邸を郷土資料館の別館と位置付けて計画的に再建を進め、一般公開できたことは評価できる。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい企画は大変な苦勞もあろうが、何か新しいエリアの企画もあってもよいのではないか。 ・旧吉田邸から資料館への来訪者の流れを定着させ、町の歴史文化を発信する企画や運営を期待したい。 ・リピーターの増加の為の展示の充実、サービス内容の拡充を検討していく必要がある。 ・旧吉田茂邸の観覧者数が早々に 10 万人を突破、郷土資料館の年間観覧者数も 3 万 5 千人強と大幅増加したことは評価できる。

② 新たな地域情報の発信

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い資料集めなど、一つの町情報のわくを越えた企画に対し、大いに嬉しく思っている。 ・企画展が好評であったこと、資料を活用して活動報告を刊行し情報発信をしている内容は評価できる。 ・歴史的価値を活用した企画展の開催に努めている。 ・「吉田茂 ―その生涯と大磯―」企画展等、町の内外から人が足を運ぶ素晴らしい企画が多々あり、大磯町を良い形で紹介できたことは評価できる。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後共、細心の注意をはらって、運営、企画をやってもらいたい。 ・保有する資料の研究を進めながら切り口を変えて利活用し、魅力的な企画展の開催を期待したい。 ・地道な活動を通じて、「大磯町」の情報を発信してきたい。

③ 町民と協働による博物館活動を展開

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・大磯町に住んでいる著名人などの協力の元、いろいろな計画が出来ていることは大変すばらしいことである。 ・博物館活動に興味を持つ多くの町民が講座に参加していること、町民との協働による施策が展開していることは評価できる。
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・各種クラブ活動の活性化と、関係講座の開催は評価できる。 ・民俗資料整理ボランティアの立ち上げは高く評価できる。 ・古文書裏打、解読もとても有意義である。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・このような努力や計画は、大変よいことである。今後も継続して実施されたい。 ・限られた職員数で多くの事業を手掛けることは難しいと思われる。町民と協働し博物館活動を充実される方策を探してほしい。

Ⅲ 資料編

1 関係法令

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。

③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/1489626810362.html>

3 平成 29 年度 教育委員会基本方針

平成 29 年 2 月 23 日大磯町教育委員会第 11 回定例会で決定

大磯町教育委員会では、教育委員会の活動に対し、自らの点検・評価及び外部評価を実施し、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、地方教育行政の推進に努めてまいりました。

こうした中、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成 27 年 4 月 1 日に施行され、新しい教育委員会制度がスタートしました。町では法律の趣旨に則り、町長と教育委員会をもって構成する総合教育会議において、「いのち」「こころ」(~自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり~)を基本理念とする教育大綱を策定しました。

大磯町教育委員会では、この新たに策定された教育大綱を尊重し、「いのち」と「こころ」を輝かせる 3 つの力、すなわち「知力」(自らの可能性を広げる基盤となる、知的好奇心をはぐくみます)、「体力」(新しい時代をたくましく生きる原動力となる、心身の健康をはぐくみます)、「共感力」(伝え合い、理解し合い、相手を思いやる心につながる、人や自然への優しさをはぐくみます)の育成を目指し、教育行政の推進に努めてまいります。

《学校教育の基本方針》

幼稚園においては、「遊びを中心にさまざまな経験を通じて、家庭ではぐくまれてきた「生きる力」の基礎を確立する」ことを基本方針とします。また、小中学校においては、学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえるとともに、教育大綱の基本方針である、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育と、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりの実現を目指します。

〔目標〕

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々の協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 幼稚園と保育所の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
3. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりや大磯らしい特色ある学校づくりに努めるとともに、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心をはぐくむ教育を目指します。
4. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、「大磯らしい」美しい自然と由緒ある歴史・文化を大切にす教育を目指して教育活動の展開を図ります。
5. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町村との広域的人事交流も推進します。

〔重点施策〕

1. 幼稚園

- (1) 町立幼稚園では、園児の実態に応じ、教育支援員の配置を充実させるとともに、預かり保育を拡充することで子育て支援を推進します。
- (2) 「けんこうプラン大磯」に基づき、町立幼稚園における「食育」を推進します。
- (3) 町立幼稚園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。また、地震や津波などに対する防災

対策の強化に努めます。

(4) 幼稚園から小学校に円滑に移行できるよう、共同での行事や研究会、意見交換の機会を設け、小学校との連携を図ります。

(5) 平成30年度に国府幼稚園をたかとり幼稚園に統合することに伴い、国府幼稚園においては保育実施と並行して解体工事を行い、解体後の用地に私立認定こども園の開設を進めます。

2. 小学校・中学校

(1) 県教育委員会からの委託を受け4年間に渡り取り組んできた「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」における成果を継承し、引き続き町立学校全校において、大磯学びづくり推進事業を実施します。各学校において、児童・生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、「日常授業の改善・充実」に向けた実践研究・研修を実施し、教師の指導力向上、児童・生徒の学力向上を目指します。

(2) 各学校において、ティームティーチング(*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努めます。

(3) 小学校低学年での実施を基本として35人学級編制を実施します。また、中学校における生徒指導及び進路指導等の課題に対応するため、必要に応じ、35人学級編制の実施を支援します。

(4) 幼児・児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、幼稚園・保育所と小学校及び小学校と中学校の連携を継続して進めます。

(5) 教職員の専門性や指導力向上に向けた研修、タブレットPC・デジタルテレビ・電子黒板等ICT(*)関連機器の効果的な活用についての研修等の充実に努めます。また、いじめ・体罰防止のための研修、適正な評価処理の研修など安全管理及び教員の事故・不祥事防止に努めます。

(6) 各学校における「食育」の推進のため、大磯町で策定した「けんこうプラン大磯」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を積極的に実践します。また、中学校給食を児童・生徒の心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力の育成、望ましい食習慣を学ぶ機会として位置づけ、義務教育9年間の学校給食を通じた食育の推進を図ります。

(7) 県のインクルーシブ教育の方針を踏まえ、町として障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもが共に学びあう教育を推進し、互いを理解しながら、社会性や思いやりのこころを育みます。

(8) 支援を必要とする児童・生徒の実態に応じて教育支援員の配置を充実させるとともに、個別的な学習支援に対応するため、指導協力員の配置を進め、児童・生徒に対する支援体制の強化を図ります。

(9) いじめ・不登校・虐待をはじめとする様々な課題に対応するため、スクールアドバイザー(*)やSSWを中心に、各学校の教育相談コーディネーター、スクール・カウンセラー、心の教室相談員などの相談支援体制を充実するとともに、県立特別支援学校のセンター機能を活用し、教育相談及び児童生徒指導体制について一層の充実に努めます。また、「大磯町いじめ防止対策基本方針」に基づくいじめ問題への取組を着実に進めます。

(10) 読書活動の推進のため学校図書館司書を全校に配置し、学校図書館を子どもたちにとって親しみやすい場所にするとともに調べ学習のニーズへの確に応えられるようにします。また、子どもたちがより一層読書に親しむ機会と推奨すべき図書を提供に向け、学校図書館のシステム化を

進めるとともに、大磯町立図書館との連携を図ります。

(11) 「開かれた学校」づくりを通じ、学校とPTA・地域・関係諸機関との協働・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。

(12) 児童・生徒の体力向上について、日常における「外遊び」の推奨や、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各学校の取組状況を検証し、引き続き特色ある取組を推進します。また、各学校において、新体力テスト(*)を実施し、その結果に基づく体力向上の取組を東海大学との連携事業も活用して推進します。

(13) 大磯中学校3号館大規模改修について、基本設計委託を行います。また、大磯小学校第2音楽室空調設備改修工事基本・実施設計委託を行います。

(14) 授業におけるタブレットPCの積極的な利用を含め、ICTを活用した教育のさらなる充実を図ります。

3. 教育研究所

(1) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図ります。

(2) 教職員を対象に教育課題に応じた研修の機会を設定し、教職員の資質向上・指導力向上を図ります。また、児童・生徒を対象とした講座を開催します。

(3) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザーや適応指導教室専任教諭により、生活面や学習面で発達の・心理的・情緒的な問題を抱えている子どもたちに対する支援を行い、その保護者と関係教職員に対する教育相談等を行います。

(4) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理を進め、活用を図ります。

《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民主体の地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境を整備し、更に学びを地域に活かす生涯学習社会の実現を目指します。

〔目標〕

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らの可能性を広げることができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、人と人とのつながりが広がるよう、町民の文化芸術活動を支援します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存・周知することにより、町民が郷土の素晴らしさを再認識し、新たな発見ができる生涯学習のまちづくりを進めます。

〔重点施策〕

1. 「大磯町生涯学習推進計画」の計画期間の中間点を経過したことで、これまでの成果を検証するためのアンケート調査を実施し、町民のニーズを把握するとともに、事業の評価方法を再検討します。
2. 「生涯学習人材登録」と県生涯学習システム「PLANETかながわ」を活用した講座を開催するとともに、時代に即した内容の充実に努めます。また、町民の主体的な生涯学習活動を支援するた

めの町内生涯学習情報の周知に努めます。

3. 大学やさまざまな機関・団体と連携することで、最新の研究成果や特色のある学習機会の提供を図ります。
4. P T Aや子ども会による家庭教育事業の開催を支援し、課題解決に向けたファミリー教室の内容充実を図り、学校・家庭・地域が一体となった生涯学習の推進に努めます。
5. 青少年指導員、P T A連絡協議会、その他関係団体と協力して青少年の健全育成に努めます。
6. 文化祭運営委員会と連携して「おおいそ文化祭」の自主的な企画運営活動を支援するとともに、町内で活動する団体や個人に対しても積極的に働きかけることにより文化・芸術活動の活性化を図ります。
7. 社会教育施設（生涯学習館、図書館、郷土資料館本館・別館）をはじめとした生涯学習関連施設・機関との連携を強化し、横断的な生涯学習の推進に努めます。
8. 生涯学習館使用者の環境改善のための修繕を行うとともに、生涯学習館の利用拡大を図ります。
9. 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを目指し、身近な問題として人権意識を高める人権教育講演会を実施するとともに、人権学習の機会を設けます。
10. 町指定文化財等の候補について、文化財専門委員会で引き続き協議するとともに、調査研究を進めます。
11. 国・県補助事業である国府祭調査を推進します。
12. 町指定文化財の保護継承を図るとともに、「御船祭」の船山車修理について支援をします。

《図書館の基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

〔目標〕

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. まちづくりなど、地域の課題解決に必要な郷土・地域資料の収集・提供に努め、町民の自主的な学習活動を支援します。
4. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

〔重点施策〕

1. 町民ニーズや社会動向の把握に努め、町民や地域にとって役に立つ資料を幅広く収集します。
2. 町民の課題解決や調査・研究を支援するため、参考図書(*)の充実や更新とレファレンスサービスを充実し、利用を促進します。

3. 児童文学講演会、ブックスタート(*)、ブックトーク(*)、ブックリストの作成、読書通帳、「読書の時間」(*)の推進など、子どもたちの読書・学習環境の整備を進めます。
4. 町立図書館と学校図書館の連携とネットワーク化を進めるとともに、小学校4年生の学級招待、幼稚園及び保育所の図書館見学を継続することにより、子どもたちが豊富な本の中から自分に合った本に出会うことで、本に対する関心が深まるよう、事業を推進します。
5. 子どもたちと本を結ぶ、おはなしボランティアを養成するための講座を開催し、人材の育成を行います。

《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

〔重点施策〕

1. 郷土資料館と旧吉田茂邸を一体的に運営し、大磯町の魅力を発信します。
2. 旧吉田茂邸について、関係する団体と相互連携を保ち、円滑な運営を進めます。
3. 地域情報を幅広く且つ深く掘り下げる機会として、テーマを絞った企画展やワークショップを開催し、利用者や他施設との連携、協働による博物館活動を展開します。
4. 収蔵資料の整備を引き続き行うとともに、燻蒸を実施し、資料を良好な状態で保存するためのより良い環境づくりに努めます。
5. 収蔵資料のデータベースの整備を進め、資料の効果的な管理を行います。
6. 広報紙やインターネット等、多様な媒体を活用した広報活動に努め、町内外に向けて館の活動内容や地域資料の情報を発信します。

【*用語の解説】

ティームティーチング

複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。略称TT。リーダーの教師を中心として、何人かの教師たちが協力しあい、授業を行う。

ICT

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称である。従来用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、「コミュニケーション」が加わっている点に特徴がある。

スクールアドバイザー

各学校において支援体制の構築及び相談機能の充実、教職員との協力体制を密にする目的で教育研究所に配置した臨床心理士。

新体力テスト

文部科学省が実施する体力、運動能力テスト。1999年これまでのスポーツテストを全面的に見直し導入された。

インクルーシブ教育

障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことを通してお互いを理解し、尊重し合う共生社会の実現を目指す教育。

レファレンスサービス

利用者が必要とする情報・資料を図書館員が検索・提供・回答する業務。

参考図書

特定の知識・情報を各項目ごとに一定の体系順に配列することによって、特定の項目を容易に調べられるようにした図書のこと。百科事典、各種辞典、ハンドブック、地図、年表、目録、索引、書誌、年鑑など。

ブックスタート

一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を開く楽しい体験と一緒に、絵本を手渡す活動。本町では4ヶ月児健診時に実施している。

ブックトーク

テーマを決め、何冊かのさまざまなジャンルの本をテーマに関連付けながら紹介し、本への興味を喚起すること。主に児童（小学生）を対象に実施している。

読書の時間

家庭での読み聞かせ及び家庭での共通の話題となるような、図書の充実と啓発活動のこと

平成 30 年度（平成 29 年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 教育部 学校教育課

〒255-8555 大磯町東小磯 1 8 3

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/index.html>

発行 平成 30 年 11 月